人文会ニュース

1998.12

座談会 人文書の現在と未来	1
人文会研修旅行特集 八文字屋書店烏谷部昭子	39
東北地区研修旅行報告 弘報委員会 鎌内宣行	43
人文会発足30年と『人文書のすすめII』 の刊行について _{代表幹事} 菊池明郎	
一	47



◉中世の秘教的世界

山本ひろ子

宇賀神、牛頭天王… 新羅明神、摩多羅神、

湧出する異形神。 資料博捜をもって 圧倒的な構想力と

「週刊読書人」で中沢新一氏激賞。 渾身の力篇。図版多数。 変せしめる

)定価:本体7、000円(税別)

803-5727-7234

1-150-860-

張替00180·0·29639 東京都自黒区碑文谷5·6·19

平凡

激動の近代」

日本評論社

菅野信夫・高石恭子/訳ナンシー・コルベット/著

白水繁彦/著 -コミュニティ ホスト社会における適応戦略、ホスト国の対応等を分析する。 日本でも多民族化が進み、エスニック・マイノリティとどう共存 していくのか。多民族社会ハワイの事例研究を中心に、少数者の [A5判] 2500円

豊島区南大塚 3-12-4 電話3987-8621[価税別]

編の論文の全訳。現実政治の中心にいた著者たちの描いてい た憲法案を擁護し、各邦の批准を促す目的で発表された八五 A・ハミルトン他著/齋藤 眞他訳 一七八七年に公表され

[四六判] 2400円

せる途を探る。「四六別」2400円現代の女性(と男性)の癒しに復活さ

愛を直接触れさせる女性たちのこと。そこでは、 精神と性愛は深く統合されていた。その後、無意 聖娼、それは古代文明に実在した制度で、女神の

水遠なる女性の姿 離の奥に失われた聖娼のイメージを、

中世の風景を

四六判六一〇頁/五六〇〇円(税別)



〒102-0073

法政大学出版局

してきた人々と、それを演滅のピアノ」を造り・販売一世紀半にわたって、「不 業と芸術のコンチェルト。 ロヴィッツらが織りなす産奏したパデレフスキー、ホ



2-0073 東京都千代田区九段北3-2-7 -5214-5540/振替00160-6-95814

K リーバーマン/鈴木依子訳 の幅広い心的活動について詳述。A5判・定価一九九五〇円 ブル」として高い評価を得た訳書。感覚・知覚の領域をはじ

め、記憶・学習・社会・パーソナリティ等のさまざまな領域

K・コフカ著/鈴木正彌監訳 ゲシュタルト心理学の「バイ たアメリカ像が今明らかになる。A5判・定価一六八〇〇円

東京・文京 本郷 2-30-7 福村出版 定価は5%税込*

3813-3981 http://www.fukumura.co.jp/

電話 (03)

人文書の現在と未来

人文書をどう定義するか

司会 今日は皆さん、お忙しいところお集まりいただきましるなお話をしていただければありがたいと広報委員会のほう文書を取り巻く状況を踏まえ、かなり多岐にわたっていろい日は、書店の現場の方、版元側の方、それからまた販売サードからそれぞれ四人の方にお集まりいただきました。今来」という大きなテーマを掲げさせていただきました。今来」という大きなテーマを掲げさせていただきました。今年は皆さん、お忙しいところお集まりいただきましるなお話をしていただければありがたいと広報委員会のほうなお話をしていただければありがたいと広報委員会のほうなお話を取り入れている。

では考えております。

頭を起な(そで土土を)今泉正光(煥乎堂部長)宿嶋聡(ジュンク堂仙台店店長)出席者(発言順)

菊池明郎(筑摩書房営業部長・人文会代表幹事)西谷能英(未來社社長)

鈴木龍太郎(春秋社営業部長)

者は「それは人文でしょ」と言うわけです。 といていの担当言えないというのが、われわれ現場の実感です。とくにい的にということになりますけれども、これが人文書であるとに「実定的に」と書いたのは、もっとやさしく言えば肯定に「実定的に」と書いたのは、もっとやさしく言えば肯定に「実定的に」と書いたのは、もっとやさしく言えば肯定に「実定的に」と書いたのはうからご発言をお願いいたします。それでは福嶋さんのほうからご発言をお願いいたします。

言っていることが全然違うものです。哲学思想もそうだし、ば、宗教の本同士がそれこそ血で血を洗う戦いをしそうな、せてもらったことがあるのですが、たとえば宗教の本であれ人文書について、私は「人文会ニュース」にも前に書か



福嶋 聡氏

現場の実感です。
現場の実感です。
現場の実感です。
現場の実感です。
にを私はもっているわけです。ですから、工学書ではないし、理学書でもない。社会科学という、世紀の話で言えばでく最近始まってきた学問でもないもの。それを結局はすべて人文書という定義に入れないとしかたがないというのが、て人文書という定義に入れないとしかたがないというのが、全然違うことを言っあるいは歴史観もそうだと思いますが、全然違うことを言っあるいは歴史観もそうだと思いますが、全然違うことを言っあるいは歴史観もそうだと思いますが、全然違うことを言っ

いわゆる人文コードに収まる本ではないわけです。ですから、常に厳しくなった人文書というのは、われわれ現場での、店が出てくる。そのときに、売れなくなった、あるいは非店が出てくる。そのときに、売れなくなった、あるいは非でして、やはり何百冊も売るへ文書は売れなくなったと言うけれども、それが売れなくなってすから、たとえば「幸福の科学」でも人文書なんです。

しています。りづらくなってきたのかというのが見えなくなるという気がりづらくなってきたのかというのが見えなくなるという気がそのなかでさらに定義していかないと、どういう人文書が売

これは伝説的なことですけれども、戦後すぐ、西田幾多 これは伝説的なことですけれども、戦後すぐ、西田幾多 します。

正直言って小売りの立場で言えば、どちらが売れても売り上げは同じですから、そのことをことさら憂慮する必要は本当はないのかもしれません。でも本音を言うと、わかることはわかる。ここで出てくる「人文書」というのは、もちろん人文会の版元各社が出しているような人文書であり、そういうものを売っていきたいというのは本音ではあるのですけれども、小売り現場ということを考えた場合に、人文書が売れなくなったという言説が、実はそういうふうなかたちで正確に伝わっているかというと、それは疑問であるかもしれない。ですから、そもそも人文書とは何だろうかというれない。ですから、そもそも人文書とは何だろうかというのが、このレジュメを始めたきっかけです。

をはじめとする本を読んでいて思ったのは、やはり国語の問たまたま最近、カルチュラル・スタディーズ、サイード

はないかという気が少ししています。はそれぐらいの大げさな気持ちで商売をしていてもいいのでをも規定しているかもしれない。ということは、われわれ題、あるいは文章の問題が、結局はネーションというもの

す。 レジュメのなかで、人文書は出版物の王道と書きました。 レジュメのなかで、人文書というものが、自分たちはいったい何をの根拠は、人文書というものが、自分たちはいったい何をの根拠は、人文書というものが、自分たちはいか。売り上げ物のなかで持ち得る、第一位のものではないか。売り上げ物のだろうかということを常に問いかけてくる書物だからでものだろうかということを常に問いかけてくる書物だからでいけば、われわれのところでも専門書の理工書やコンピューをの成がでいた。 本とは何かということを常に問いかけてくる書物だからでものだろうかということを常に問いかけてくる書物だからでいたいのですが、出版工道という言葉がいいのかどうかわからないのですが、出版工道と書きました。

る今泉さんはいかがですか。うところもあるのですが、同じように書店の現場にいらっしゃうところもあるのですが、同じように書店の現場にいらっしゃ

書店業をどう成り立たせるか

のこの不況のなかでどうしたらいいかみたいなことを抱え込けの話ではなく、小売業全体の話になってしまって、いまのは実感としてもっています。ただそれはもちろん人文書だします。同時に、だいぶ本が売れなくなっているなという今泉 福嶋さんの話を聞いていて、とてもわかるような気が

んでいるわけです。

私自身は、現場の第一線でどんな本がどう売れるかという私自身は、現場の第一線でどんな本がどう売れるかという部分のほうが大きな問題で、われわれの給料も含めて、はたして企業としてみんながごはんを食べていけるのでしょうかとん人文書も大きなテーマですけれども、それ以前に、本屋ん人文書も大きなテーマですけれども、それ以前に、本屋として生き残れるのかというほうが、実は大きなテーマなのです。本の読まれ方、買い方、そういう環境がいま大幅にです。本の読まれ方、買い方、そういう環境がいま大幅にです。本の読まれ方、買い方、そういう環境がいま大幅にです。本の読まれ方、買い方、そういうこに活路を見いだしたらいいのか。『人文書のすすめ』のなかに取り上げられているような領域。福嶋さんの言葉で言うと、これは補集合みるような領域。福嶋さんの言葉で言うと、これは補集合みるような領域。福嶋さんの言葉で言うと、これは補集合みるような領域。福嶋さんの言葉で言うと、これは補集合みるような領域。福嶋さんの言葉で言うと、これは補集合みるような領域。福嶋さんな本がどう売れるかという私自身は、現場の第一線でどんな本がどう売れるかという私自身は、現場の第一線でどんな本がどう売れるかというによりでは、またいと、

文書を作る側ということで、西谷さんのほうからお願いします。 まうに構想していくかということだと思います。 か提案できるのか。それが結果的に読者に伝わっていって、が提案できるのか。それが結果的に読者に伝わっていって、が提案できるのか。それが結果的に読者に伝わっていって、が表できるのか。それが結果的に読者に伝わっていって、がのできるのが、書店に働く人間にとって、どうしたら人文書を作る側ということで、西谷さんのほうからお願いします。



今泉正光氏

人文書を作る側の責任

西谷 いま今泉さんのほうから、書店の現場では本を売るこ 西谷 いま今泉さんのほうから、書店の現場では本を売るこ 西谷 いま今泉さんのほうから、書店の現場では本を売るこ 西谷 いま今泉さんのほうから、書店の現場では本を売るこ 西谷 いま今泉さんのほうから、書店の現場では本を売るこ 西谷 いま今泉さんのほうから、書店の現場では本を売るこ 西谷 いま今泉さんのほうから、書店の現場では本を売るこ

かいつまんで申し上げたいと思います。に言うことは難しいのですが、自分なりにやってきたことをさなほうですから、作る側の立場なり論理を集約して明示的

自分としては、売れる専門書、あるいは売れる人文書というものを作りたいと念願しながら、実際のところは、文いうものを作りたいと念願しながら、実際のところは、文いうものを作りたいと念願しながら、実際のところは、文いうかリーズがあります。それはある面では自分の編集者としての履歴書のつもりでいるわけですが、まんべんなく売としての履歴書のつもりでいるわけですが、まんべんなく売としての履歴書のつもりでいるわけですが、まんべんなく売としての履歴書のつもりでいるわけですが、大事としての最近にある。

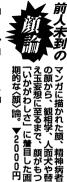
コシコと親しい著者を中心にいろいろ新しい情報などを教えて、たは大きい出版社では可能かもこればあるほど、どういう企画を出すか、どうしたら社であればあるほど、どういう企画を出すか、どうしたら社であればあるほど、どういう企画を出すか、どうしたらを営に寄与する本を作れるのか。そこが最大のネックとして経営に寄与する本を作れるのか。そこが最大のネックとしてを営に寄与する本を作れるのか。そこが最大のネックとしてとは大きい出版社では可能かもしれませんけれども、われのようなところでは残念ながら、営業力、宣伝力、そわれのようなところでは残念ながら、営業力、宣伝力、その他人手が足りないとかいろいろ新しい情報などを教えて、発はどうないというおおいろいろ新しい情報などを教える。

集者でも原則的に当然の仕事です。ただ、とくに人文書と だけはあるんです。 何か新しいジャンルが切り開けるのではないかという、希望 それが結果としてどうなるかは別として、そこにかろうじて 再生産するようなものはしないし、新しい発見や冒険のない てもしょうがないという、編集者の心意気というのでしょう でに出版されているものの蒸し返しにすぎないような本は作っ か専門書という立場で編集をやっている人間にとっては、す があると思えるところで企画を立てています。これはどの編 ていただきながら、新しい人文書なり専門書なりの先端部分 か、倫理のようなものが必ずあるはずです。だから、縮小 企画とか、他社の後追いをするような仕事はしたくない。

とくに文字を中心とした専門書に関しては、著者も含めてコ 常に力を入れてやっているのですが、専門書でも人文書でも、 あとは最近のコンピュータの問題です。私も実際にいま非

勢ももちろんそうですが、いままでの本づくりと違うかたち 上は使いこなせる人が増えてきますと、印刷所の受け入れ態 代のように、著者も編集者もだいたいパソコンをある程度以 ば実現可能になってきたのではないか。人文書でも専門書で 的にコストが下がることによって、いままで採算ベースに合 きたのではないか。これは何に結びつくかというと、 ンピュータ上でデータ処理をすることによって、 がどんどんいい仕事をしていたのに、最近は高年齢化にとも り開いてきているわけです。 昔はそれこそ二十代、三十代 力のある人の仕事が、実際のところ新しいジャンルを常に切 もみなそうですけれども、まだ若くて無名であっても本当に ていい研究をしているような人の本が、小さい出版社でなら わなかった、たとえば若手でまだ無名だけれども実力があっ で、コンピュータをいい意味で利用した編集が可能になって コスト化、それから高速処理が可能になってきました。 かなりの低







上野俊哉 状況を切り結ぶ批評家が説く。上観、現代におけるアニメの役割を、 ン」まで、ロボットアニメの世界 「ガンダム」から「エヴァンゲリオ

野版「アニメの見方」▼1700円



西谷能英氏

性との緊張関係にあるものを批評と言うのではないか。

こへきて急速に開けてきたのではないか。これが私の偽らざ企画出版として経営的にも十分に成り立つような可能性がこきな可能性があるはずなので、そういう人たちを含めて、な気がします。けれども、まだこれからの人たちに実は大なって全体に十年から二十年ぐらい後ろに回されているよう

いるものではなく、言ってみれば、自己批評も含めた外部況にたえずあるもの。既成の理論なり学問体系に乗っかってどういう方向に行くか、なんとも言えないような危機的な状ます。クリティックとは危機ということでもあるわけです。ます。クリティックとは危機ということでもあるわけです。ます。クリティックとは危機ということを十分議論をするときあとは、人文書とは何かということを十分議論をするときあとは、人文書とは何かということを十分議論をするとき

司会 あたりのことを考えてみたいと思います。 なものになってきたのではないかと思います。 る。言ってみれば人文書の非常に大きなバックボー が新しく作られました。これはそのときに私が強く主張した 初に作った『人文科学の現在』が非常に評判になったこと 評論というジャンルは、それらを総括するものとして存在す 本的には好ましい方向にあるものと思っています。 ものですので、今回またそれが踏襲されているというのは基 きたわけです。このときに「批評・評論」というジャンル もあって、その五年後に『人文書のすすめ』パートⅠがで もっと大胆に言ってしまうと、哲学・思想、 『人文書のすすめ』のパートⅡが出ました 社会、教育と既成の六ジャンルにたい それでは菊池さんのほうからお願いします。 ね。 心理、 きょうはこの 十年前 ンのよう 宗教、 批評 に

人文書は売り方次第で可能性はひらける

すめ』のパートⅡは出来上がったばかりですが、人文会がている書店さんの人たちへの橋渡しを、出版社という中でやっている書店さんの人たちへの橋渡しを、出版社という中でやっ場から見ています。売るといっても、本当に第一線で売っ場がら見ています。売るといっても、本当に第一線で売っ場がら見ています。売るといっても、本当に第一線で売っないう立場です。

ことから触れたいと思います。この十年間でなぜこういうものを三冊送り出したのかという

哲学·思想、

歴史、宗教、

社会、心理・教育、それから

人文書というのは、書店で売るのはなかなか大変です。人文書というのは、書店で売るのは扱い方がやはり難しい分野でしたがって、人文書というのは扱い方がやはり難しい分野でしたがって、人文書というのは扱い方がやはり難しい分野でしたがって、人文書というのはなかなが大変です。

大きく分けると、とりあえずここにお示しした七つの分野、れわれはもう少し実践のほうに引き寄せて捉えていますので、と先ほどの福嶋さんの定義で別に構わないと思いますが、わ人文書の定義の問題になりますと、哲学的な言い方をする



菊池明郎・人文会代表幹事

れた本の集合、それが人文書だと思っています。と言っている学問ですが、いちおうそれをベースにして書かぱな分け方をすれば、英語で言えばヒューマン・サイエンス評・評論が人文書を構成しています。学問の流れから大ざっ

ると、 学問の流れがわかっていなければできないことです。 るのだなということで、読者はその棚に行って本を買うわ 作家別に並べていけば、なるほどこの作家のものはここにあ いうふうな組み合わせをするかということが難しい。 ばいいというものではなく、ともかく分類が難しい。 です。人文書の場合には、単にひとりの著者を固めておけ こういう本を作ったわけです。 もどうにもならない。そういうことに十年ぐらい前に気がつ いう棚を作って欲しいということをバラバラに提案していて て欲しい、こういうふうに分類して欲しい、 なぜ人文書は扱うのが難しいのか。文芸書の場合だったら 編集者、 出版社が個別に書店さんに、こういうふうに展示し あるいは書店の現場の方々のご協力を得て、 あるいはこう そうす どう

を徹底チェックし、ない本を置いてくれた比較的大きな地方にかなり根を下ろしてきていて、二冊目を使って自店の在庫にかなり根を下ろしてきていて、二冊目のときに何に気がついたかというと、書店の現場の方々たちまでかなり読んでくれました。予想外に売れたのですが、書店の人たち、取次の人たちばかりではなく、図書館の人書店の人たち、取次の人たちばかりではなく、図書館の人書店の人たち、取次の人たちばかりではなく、図書館の人書店の人



司会 鈴木龍太郎

ことで、こういう仕事をしたということです。 ことで、こういう仕事をしたということです。 ついら例がありました。それで私たちがやってきたことはそういう例がありました。それで私たちがやってきたことはそういう分野の著作はどういう学問の流れ、あるいはどういこが問題ででは、一世の中に送り出されているのか、その書店さんは、売り上げが飛躍的に伸びた。 つい最近もその書店さんは、売り上げが飛躍的に伸びた。 つい最近もその書店さんは、売り上げが飛躍的に伸びた。

うなのかというと、極端に落ち込んでいるわけでもない。れないと言われていて、こういうふうになってきたときにどすが、人文書は出版界が不況になる前からあまり売れない売に襲われ、出版不況がだんだん深刻になってきているわけでいまの状況との絡みで言うと、こういうふうに出版も不況

とかいうもの。 こそこ健闘している。 書の分野でもざっと見ていくと、 書いてしまったとか、 をしているというか、 のデータを見ていますと極端な落ち込みはありません。 自社のデータを見ていてもそうです。それ しっかりしている書店さんは大小を問わず、 そういうものはこの間はだめです。 われわれがこのテーマはやや心配だぞ たとえば著者も時間がなくて大慌てで 成績が悪いのは、 中身の しっかりした本はそ ちょっと甘い作り から面白い 私の社

がる。 書店さんやわれわれがどこかで知恵を出し合って先につなげ と楽観 ば、 ない いてもしょうがないので、 受けているのではないか。 たのですが、このごろは使える小遣いが限られてきているの こういう嵐のなかをうまく操縦してなんとか生き延び てきちっとしたものを出し続けていけば、なんとか先につな ではないか。バブルのときは大目に見て買ってくださってい あっては、やはり読者もそうとう吟味して本を買っているの それは退場しなさいということを読者から言われているの ですから、 お互い 中身のしっかりしたものから優先して買っていくのでは いま非常につらい状況にあるのですが、 か。だから、 ある意味では、 論になってしまうわけですが、暗いことばか に先につながるのではないか。 読者の財布の紐が固くなったという状況の 甘めに作った本はやはり敗北してしまう。 いま編集者も営業マンもいい試練を そのへんに一筋の光を見 書店さんもそうだと思います。 最終的 ここを我慢し にはわり て行け 中に

暗いほうにばかり行かないで、 めていただけたら、 希望はどこにあるのかということもどこかに据えて議論を進 ていけたらいいなと思っています。 私はありがたいと思います。 明るい部分は何があるのか、 ですから、 今日の話は

人文書の変貌と批評の課題

尽くしたのではないかと思います。定義ということで言えば 文書が変貌してきているのではないかという話もあります。 ろでそれぞれのお立場からいまもご発言があって、西谷さん かなり難しくもあります。人文書とは何かというようなとこ とでご発言をいただきましたが、今日のテーマがほとんど出 たいと思います。それぞれのお立場からまず最初にというこ から若手の話もありましたけれども、書き手、作り手、人 どうもありがとうございました。 ぜひ明るい結論を得

> 書く側、 からご発言をいただければと思います。 ころから西谷さんにお話をいただき、 それを編集する側、 それから販売する側というと あとは随時、 皆さん

貌してきたし、これからますますそうなります。 です。その外側との接点のところで学問領域自体がたえず変 あるいは外部領域のものを取り込もうとする傾向をもつわけ る学問領域にたいして、たえずそこからはみ出ようとする、 知というものが、既成の体系としてそれぞれできあがって る部分が明確にあるわけです。結局、 西谷 これまで人文科学、社会科学、 人文科学というものがいちばん領域が明確でない。 つの学問領域があるとされてきました。そのなかでもともと 歴史、心理、宗教といったジャンル自体には、 自然科学という、 人間の精神というか しかし 確固た

社会科学の場合は、とくに日本の社会科学ということで言 基本的にウェーバーとマルクスという大きな二つの鉱

土屋賢 2200円 3|

知覚など、 哲学の基本的なテーマを解く。

姕、声、

皮膚等項目別に魅力の由来と変遷を徹底解剖する

●S・ブラウンミラー

⁄ 幾島·青島 訳

D・ビッカー 700E

言語が生まれるプロセスを生物の認識の獲得として追究。

·3300円

東京都文京区後楽2-23-15 Tel 03-3814-6861/Fax 03-3814-6854 http://www.keisoshobo.co.jp

* 価格税別

を戦前からの断絶として捉えるなかで、ヨーロッパから接ぎを戦前からの断絶として捉えるなかで、ヨーロッパから接ぎなが日本の内的な精神風土から出てきたというよりは、戦後のは、言ってみれば外から植え付けられたもので、それ自をずっと支えてきたわけです。戦後民主主義というようなもをずっと支えてきたわけです。戦後民主主義というようなものは、言ってみれば外から植え付けられたもので、それ自のは、言ってみれば外から植えば経済学から成り立っていたと思いがあって、戦後思想で言うと、基本的にマルクス主義と脈があって、戦後思想で言うと、基本的にマルクス主義と

効力を失っていったわけです。が、乱暴に言ってしまうと社会に対する分析の手段としては後思想の総点検を契機として、おそらく日本の社会科学自体六○年代の高度成長期を経て六○年代末の大学闘争による戦へれは一九五○年代ぐらいまでは持ちこたえたわけですが、

木された思想です。

というと力を失っていきます。う自己批評性を失っていくかたちになって、これもどちらかための科学という自縄自縛に陥ってなんのための科学かとい標を失うとともに、ひたすら専門分化してしまう。科学の中の軍需産業によって支えられてきた科学の先端部門が、目中の軍需産業によって支えられてきた科学の先端部門が、目

れらを総括する思想として哲学の必要性が求められ、いまや自然科学ももうひとつ勢いがなくなってくるのに応じて、そと下火でやってきたわけですが、ここへきて、社会科学も人文科学はどうだったかというと、結局、哲学などもずっ

で、ここでで、こうにつうろ月で、ここでのことにに人文科学は復権しつつあるのかもしれません。 相対哲学の時代だというようなことになってきています。相対

に結びつけていく批評性をもった本がこれからの人文書と言た結びつけていく批評性というものを強く志向したものが出ている批評というものが発動して、新しい領域が切り開かれている批評というものが発動して、新しい領域が切り開かれている批評というものが発動して、新しい領域が切り開かれている批評というものが発動して、新しい領域が切り開かれている批評というものが発動して、新しい領域が切り開かれている批評というものが発動して、新しい領域が切り開かれているはずです。ですからそれぞれの学問研究のありかたを点検し、それを現在的なさまざまな課題と越境的・横断的を点検し、それを現在的なさまざまな課題と越境的・横断的な点がです。ですからそれぞれの学問研究のありかたを点検し、それを現在的なさまざまな課題と越境的・横断的な点がです。ですからそれぞれの学問研究のありかたを点検し、それを現在的なきにまれるのではないでしょうか。

います。 明るい展望にいくにはほかの方のご意見もぜひ伺いたいと思期待も含めて言っており、 やや手前みそ的なものだから、落ち込んでいるわけです。いまのは私の思い込みというか、落ち込んでいるわけです。いまのは私の思い込みというか、理屈で考えるとそうなのですが、現実的にはやはり全体が

な影響を与えてきているとは思います。哲学の時代という話崩壊したということもあって、それが人文書にもかなり大き司会 戦後思想を支えてきた大きなイデオロギー的なものが

ではいかがでしょう。 もいま出ましたけれども、今泉さん、六○年代以降、現場

人文書販売の現場から

ている、精神分析もだんだん変わってきている。 といる、精神分析もだんだん変わってきている。 とかいってしまって、リオタールの「大きな物語」が終わってしまったみきて、リオタールの「大きな物語」が終わってしまったみきて、リオタールの「大きな物語」が終わってしまったみきて、リオタールの「大きな物語」が終わってしまったみきて、リオタールの「大きな物語」が終わってしまったみきて、リオタールの「大きな物語」が終わってしまったみきている、精神分析もだんだん変わってきている。

です。

です。

です。

本語の方も興味を持ち、読んで行ったわけ

でおっている。本屋のなかでも、バブルのとき、つまり八

変重彦さんの流れを見ていても、世界の潮流とどこかでつな

変重彦さんの流れを見ていても、世界の潮流とどこかでつな

変重がないのでも、十年ぐらい前からそういうような流れがあ

して、いろいろな本ができました。きているだろうし、そういう面では非常にスピードもアップンスに留学して語学が抜群にできますから、訳もよくなって

す。 ではいましたというのも非常によくわかる。ではいまたれが一段落したという部分では、私などは「大きなキーどうしたらいいのかという部分では、私などは「大きなキーという部分があります。もちろん彼ら個人の能力ではなくたという部分があります。もちろん彼ら個人の能力ではなくかそういう人たちが死んでしまって、生産力がガタッと落ちかそういうがないよな」というのが実感です。フーコーとどうしたらいいのかという部分では、私などは「大きなキーどうしたらいいのかという部分では、私などは「大きなキーとったのではいまできていないという部分はあると思います。

のを人文書に取り入れると、「こんなのありか」というぐらあのへんがまだ岩波さんから出ていて物理の棚に入っていた『ゲーデル・エッシャー・バッハ』とか、プリゴジンとか、じで、新しい局面が生み出せないままでいまうごめいている。世界の文化とか思想がある面で行き詰まっているような感世界の文化とか思想がある面で行き詰まっているような感

いに本当によく売れた。

確かに大きく売れる本はないけれども、よく見ていくとけっという心理の問題にも全部かかわってきている。だから、まれているような部分があって、免疫とか、自己とは何かいまようやく複雑系とか、最近の自然科学の本が人文書で読まさにそれはバブルであったのかもしれませんが、それがまさにそれはバブルであったのかもしれませんが、それが

ベストテンに人文書が入るということが大型店のなかではけっ

その時期は、確かに人文書も売れたような気がしますね。

こうありました。新しい翻訳者もどんどん出てくる。 フラ

守的になっていくなあ」と思えていたわけです。 もちろん 判断できるという人がほとんどいなくなってしまう。 書店として人文書を売っていくのは回転の速いジャンルでは しい評価が必要なのであって、そこからどういうふうにお客 わったのか変わらなかったのかわかりませんが、私個人とし ん出てきています。そういう面でいくと、十年前と何が変 いまでも、コンサバの潮流は新しくスタイルを変えてどんど などはわけのわからない本だから、ますます排除されてしま その結果、商売の原点である、その商品を見て自分なりに アルバイト、パート、あるいは機械で全部やってしまう。 では、人件費の問題で人材を育てる余裕はないですから、 新刊依存型で、常備も動かない、 商品も発注しない。 一方 という現実があると思います。 つまり、 れども、中間層の本屋では、どんどん人文書を切っていく ないですから、どうしても棚から消えていってしまいます。 さまに提示できるかということです。 しかし正直言って、 あまり差はないです。ただ、そこに出てくる登場人物は新 した人文書のイメージといま現在あらわれているものとは、 ては予想どおりのところにいま入っています。十年前に構想 の実感では、レーガンが出たときに、「ああ、アメリカは保 いま世の中は非常に保守的になっていると思いますが、 大型店にはけっこう人文書が社外在庫で並べられているけ 回転が悪いから、

思います。

案などは、逆に聞くべきものがたくさんあるのではないかとら、そういう面では福嶋さんのそういうところを生かした提ら、そういう面では福嶋さんのそういうところを生かしたりにおうな部分があると思います。ジュンク堂さんなどは逆に、ような部分があると思います。ジュンク堂さんなどは逆に、ような部分があると思います。ジュンク堂さんなどは逆に、ような部分があると思います。ジュンク堂さんなどは逆に、ような部分があると思います。ジュンク堂さんなどは逆に、なったがあるのでは人文書は本当に風前の灯というように位置でですから、経営のなかでは人文書をどういうふうに位置でですから、経営のなかでは人文書をどういうふうに位置で

こう面白いことができるということはいまでもあります。

ということはないと思いますけれども、「このぐらいの気持そういうことでは、彼の試みがすぐにいろいろな所で使えるく、私から見るとある面ではかなり腹をくくってやっている。そのへんでジュンク堂さんなどは、器が大きいだけではな

くれたほうが、元気は出ると思います。 ちでやれば人文書は必ず売れるぜ」ということを逆に言って

今泉 司会 好きが集まっているという気がします。人文書というのはそ ところを逆にドーンとやって、 でも出していらっしゃる。 います。 大学がないとなかなかマーケットとして売れていかないと思 ですよね。菊池さんが言ったかたちの人文書というのは、 の地域に大学がどれだけあるかということがかなり大きいん しかも、いい加減ではなくてね。売る側も本当に本 ジュンク堂さんは、 そのなかでジュンク堂さんは、大きな書店を地方 採算は合っているのかどうか知り ほかの書店さんが撤退してい いい成績が出ている。 っ た

地方のほうが採算は合っているんです。機械化の問題にして 福嶋(これはオフレコにしたほうがいいかもしれませんが、 別に人間は要らんと言っているわけではまったくなくて、

> きるというのが発見であったわけです。 方から来てやってもらえばいい。そういうふうな考え方がで なくても、アルバイトが入れるだけの量だったらその日の夕 極端に言えば、社員、あるいは定時社員という人が来てい 常備品に関しては全部自動発注で流れるということであれば、 あるいは入れ替えを済ませて、四時、 やり方だったら、四時ごろには必ずいったん棚入れを済ませ、 スパンで仕事が考えられるわけです。 具体的に言うと、 に掛かるという順番がありますね。ところが、少なくとも いま自動発注を流しているので、 昔のスリップを使っ 五時からはスリッ 一日の

どちらかが出てこなければいけないという状況ではなくなっ 仙台が五十人です。売り上げについていえば、 ています。 たいに、強迫観念的に一ジャンルに必ず社員が二人いて、 もちろん、社員がいるに越したことないのですが、 具体的に言えば、従業員総数は京都が百人で、 仙台は京都

を告げる声を聞 病めるアメリカと闘った30年

どりする社会政策に取り組んだ『行動する哲学者』 長として生きた経済を相手に苦闘し、二一世紀を先 七〇年代末にソ連崩壊を予見、上院財政委員会委員 D·P·モイニハン著 嶌信彦監訳 リクター香子訳

• 鎮目守治の冒険

渡辺桐子著

カラー口絵8頁付「四六判上製・一八〇〇円だけでも面白かった。………好評発売中!ので、その波瀾万丈の生涯を教えてもらった れの面白い人について、 瀬戸内寂聴すいせん▼鎮目守治というけた外 私は全く無知だった

斬り!【教養文庫】 有名文化人メッタ 日本をダメにする 14刷・六四〇円 (価格は税別)

東京都文京区本郷3-25-13 **☎**03-3813-8101 FAX 3813-906

人文書の新しい書き方、読まれ方

ていく。そういうかたちで考えるわけです。 でいく。そういうかたちで考えるわけです。 その部分を省略した。それはそれでやってといて、実はそのほかのことで手がかかっている部分、たとえばスリップにハンコを押すといかかかっているおけではないところに目をつぶっているわけではなますから、効率化が非常にできます。それは別に、人間があせから、効率化が非常にできます。それは別に、人間がの七掛けです。しかも、社員と定時社員との率が全然違いの七掛けです。しかも、社員と定時社員との率が全然違い

はするんですよね。
実はどういうふうに言ったらわかっていただけるのか、難実はどういうふうに言ったらわかっているのですが、おっしゃったように、がなかったような町に千坪程度の店ができる時代じゃないでがなかったような町に千坪程度の店ができる時代じゃないでがなかったような町に千坪程度の店ができる時代じゃないでがなかったような町に千坪程度の店ができる時代じゃないですか。それを考えれば、菊池さんがおっしかし、ガル崩文書を切っていったが、着いに言ったらわかっていただけるのか、難実はどういうふうに言ったらわかっていただけるのか、難実はどういうふうに言ったらわかっていただけるのか、難

がいいと思うんですけどね。福嶋(でも、新刊の出具合はいまぐらいに落ちてくれたほうても、それはわかりますよね。回らなくなっています。ています。いまの返品率を考えたり新刊の出具合を見たりし今泉(ただ、出版社さんも恐らく、経営は確実に苦しくなっ

版社がたくさん出てきますよ。

の人文書の分野とつながる。しかも面白い。ですよね。さらにそれが、実は従来のちょっと狭い意味で実にわかってきている部分があるというのです。これは驚きなかったところで、脳科学が脳の解析をやることによって確いていただいた論文では、従来、心理学や哲学が踏み込め、外型、今回の『人文書のすすめⅡ』で、澤口俊之さんに書

これはもともと養老孟司先生が開拓し、人文や哲学と結び

なるのですが、そういう組み合わせがあるわけです。複雑そういう提案をやってくれている。そこでまた私は楽観論にはちょっと悲観的に言うけれども、新しい見せ方というか、提案をやってきてくれているわけです。だから、今泉さんこれからなのでしょうけれども、読者にとって非常に面白いこれからなのでしょうけれども、読者にとって非常に面白いつけるという学問的な提案をやってくれて、澤口さんというつけるという学問的な提案をやってくれて、澤口さんという

い。
 に対してもそうです。それはやはり必死に発掘していきたあょっと我慢しようじゃないかというところがあります。出者の方々も少しはうごめいてくれているということがあって、という問題はあるけれども、これから活躍してくれそうな学という問題はあるけれども、これから活躍してくれそうな学とうすると、確かに大家は、丸山眞男先生も亡くなった

系の問題にしてもそうだと思います。

実は人文会で三十周年の本を作りましたが、この間、紀

なか論文を書かない」というようなことをおっしゃっておりなか論文を書かない」というようなことで記していることで面白いなと思ったのは、「実は栗の話にしたも、だれも研究をしていないテーマがいろいろでも柿にしても、だれも研究をしていないテーマがいろいろでもがにしても、だれも研究をしていないテーマがいろいろいろとで論文を書かない。日本史で言えば社会史になります。ある」というのです。 岩町は網野善彦先生です。網野さんが伊國屋さんのホールで、人文会三十周年を記念したセミナー伊國屋さんのホールで、人文会三十周年を記念したセミナー

きたいということだったと思うのです。
ぎ合わせていって、なんとか出版社の側から底支えをしてい西谷さんが先ほどおっしゃったのも、そういうところをつなついている比較的若手の学者たちもいるわけです。おそらくマがいっぱい転がっているし、それから、そのことに気が収の人たちも「なるほど、面白いじゃないか」というテーですから、個々の学問の分野では、出し方によっては一

ました。

ですよね。マルクスだって経済学批判であって、あれは決を肯定的に申し上げたかったのですが、やはりクリティック福嶋(私も先ほどから西谷さんのお話を聞いていて、その話それを一言聞きたいと思うんです。いちばん接触をしている立場でどういうふうに見ているのかいちばん接触をしている立場でどういうふうに見ているのかい

して経済学ではないわけです。世に残っている対象は全部批

参考になった部分があります。 げるならば、大沢真幸さんの『戦後の思想空間』が非常に判だったわけでしょう。先ほどの戦後の思想ということで挙

なと思いました。けてしまった」と書いている。やはり彼は頭の切れる男だは化になろうとしたのに、結局、読者はそれをまともに受らのことを悪く言っているわけではなくて、「彼らはいわばいちばん面白かったのは、浅田、蓮實批判です。別に彼いちばん面白かったのは、浅田、蓮實批判です。別に彼

と思うんですよね。 と思うんですよね。 と思うんです。私は年が今年三十九なので、あのへんがだいたい同世代です。あるいは森岡正博とか、そのへんあとを立川健二が継いで、いろいろなことをするのも可能だあとを立川健二が継いで、いろいろなことをするのも可能だはちょっとおとなしくしているけれども、丸山圭三郎先生の終わったあとにそれを切り返してくる活動は可能だし、いまだからそういうかたちで、たとえば浅田さんとかの活動がだからそういうかたちで、たとえば浅田さんとかの活動が

はもっと言えば、ハイゼンベルクを人文書の棚にもってくるの対応の仕方なのですが、確かにプリゴジンとか、あるいいている方っていらっしゃるんだな」と感慨深かった。いている方っていらっしゃるんだな」と感慨深かった。いている方っていらっしゃるんだな」と感慨深かった。いている方っていらっしゃるんだな」と感慨深かった。いている方っていらっしゃるんだな」と感慨深かったのが、「森岡正博さんの本は置いてい文書の著者で聞かれたのが、「森岡正博さんの本は置いてい文書の潜んですが、ないのですが、本語に表し、

非常にきらびやかな場所を作るよりは、もっと舞台を広く使っかに舞台を広く使うかということを考えているので、一点でいうのもあるんです。そのほうが、いわば舞台を広く使えれども、私は人文書の読者に物理学の棚まで行って欲しいとことも非常にいい手だと思います。しかし言い訳がましいけ

くま文庫、岩波文庫も含めてそうです。 もらわないと困るという部分があるんです。もちろん、ち言えば、人文書の読者は常に専門書以外の棚もチェックしてに平積みしていないのだ」とよく怒られるのですが、逆にに平積みしていないのだ」とよく怒られるのですが、逆にだから、別に人文書の棚ということにあまりこだわっていだから、別に人文書の棚ということにあまりこだわってい

のは、文庫、新書の棚はちゃんと回遊してくれている。だうしたらそこそこ売れたんですね。人文書を買う読者というなかったから、無理やり文庫の棚でやってみたんです。実は吉ちおう文庫にも目を通しているのではないか、そのへんは見ちおう文庫にも目を通しているのではないか、そのへんは見ちおう文庫にも目を通しているのではないか、そのへんは見られです。ただ、私はひょっとしたら人文書を買う読者はいかが、仙台店では、いちばん端と端に人文書と文庫がある的段階について「史観の拡張」のときに一度試みてみたので的段階について「史観の拡張」のときに一度試みてみたのでのは、文庫、新書の棚はちゃんと回遊してくれている。だ

ではないか。から、無理にこれを人文書の棚でという必要はあまりないのから、無理にこれを人文書の棚でという必要はあまりないの

ありますよね。そのことはもう読者も知っている。凡社ライブラリー、講談社学術文庫にしかないというものがらちくま学芸文庫にしか入っていないもの、それから、平菊池 とくに人文書のロングセラーで、私のところで言った

福嶋 知っていると思いますね。

てやっていきたい。

自動発注と在庫管理の問題

あと人の問題ですが、スリップのデータの取り方で、コくか。それがとても重要なことだと思います。パーソンとキーワードをうまくミックスしながら、自分の立地とマーケットを考えて各人がどうやって情報を発信してい地とマーケットを考えて各人がどうやって情報を発信してい地とマーケットを考えて各人がどうやって情報を発信している。前にも言ったけれども、なかなか捉えられないところです。前にも言ったけれども、なかなか捉えられないところです。前にも言ったけれども、

別で全ジャンルを見ました。それを見ていくと、いろいろ別で全ジャンルを見ました。それを見ているとりで分けた数字を見ても、イメージが広がっていかない。この間、お数字を見ても、イメージが広がっていかない。この間、お数字を見ても、イメージが広がっていかない。この間、おかどんどんわいてくる。これはけっこう大事なことで、「今がどんどんわいてくる。これはけっこう大事なことで、「今かどんどんわいてくる。これはけっこう大事なことで、「今かどんどんかいを見るわけ。そうすると、イマジネーションを何回も何回も見るわけ。それを見ていくと、いろいろいどのです。新書から文庫を開いていると、いろいろいどのです。新書から文庫を開いていると、いろいろがどんです。

担当者がこれを見て、「あ、これが売れるのだったらこれもというというにもって欲しいと思っているか、ものを識別できないたいわかってくる。そんなに難しいことではないんです。と読み続けるだけで、普通言われている人文の世界、文学を読み続けるだけで、普通言われている人文の世界、文学と読み続けるだけで、普通言われている人文の世界、文学と読み続けるだけで、普通言われている人文の世界、文学と読み続けるだけで、普通言われている人文の世界、文学と読み続けるだけで、普通言われている人文の世界、文学と読み続けるだけで、普通言われている人文の世界、文学と読み続けるだけで、普通言われている人文の世界、文学を記み続けるだけで、当のを識別できないと思っているという問題とかいうというというと関係というと思っているというと思っているわけです。いまでも、「大きない」と思っているというと思っている人文の世界、でもいいと思っている人文の世界、大きないと思っている人文の世界、文学の世界、芸術の世界、どんなデーマを取り上げられている人文の世界、文学というというというというには、大きないと思っている人文の世界、大きないと思っている人文の世界、というないと思っている人文の世界、というと思っている人文の世界、というと思っている人文のでは、大きないと思っている人文のでは、大きないと思っている人文では、一切には、大きないと思っている人文の表示という。

かないといけない。草の根運動ではないけれども、そういう書店の人が増えてい置いてみよう」とか、「こういうことをやってみよう」とか、

この間聞いた話ですが、ある出版社の人文書が十冊入って、一週間で七部売れて三冊残り、その後注文がこなかった。なぜそうなのか、出版社の営業が回って聞いたら、「わからなぜそうなのか、出版社の営業が回って聞いたら、「わからないうか、出せないというか、そういうことが起こっているいうか、出せないというか、そういうことが起こっているいうか、出せないというか、そういうことが起こっているおけです。だから自動発注というのは、一方では非常に合理的で、システムとしてうまくいくわけですが、実はものすごい落ちこぼれがある。ちゃんと担当者が育っていないお店では、すごいロスが行われたり、また、仕入れストップ店では、すごいロスが行われたり、また、仕入れストップ店では、すごいロスが行われたり、また、仕入れストップ店では、すごいロスが行われたり、また、仕入れストップ店では、すごいるのがわかっていても発注が止まってしまったり、経営のレベルを含めて複雑な問題が発生してくるわけたり、経営のレベルを含めて複雑な問題が発生してくるわけたり、経営のレベルを含めて複雑な問題が発生してくるわけたり、経営のレベルを含めて複雑な問題が発生してくるわけです。

なアイデアが浮かんでくる。

れば、なくなっても注文を出さないんです。そんなものは間も経たないうちに七部売れても注文を出さない。下手をす本当に信じられないような話なんです。十部入って、一週実際問題なかなか回っていかないだろうなという気がします。のへんの議論は個別の店長が問題意識をもってくれないと、どういうふうにしてもっと適切に使わせるようにするか。そどういう、アルバイト、パートさんまで、こういうものをだから、アルバイト、パートさんまで、こういうものを

ていく。そういうことが現実にいま起こっています。関係ない。次の新しいものが入ってくるから、それを並、

ほとんど対応できていないのが現状ではないでしょうか。トである程度対応はしようとしていても、書店のレベルでは、トである程度対応はします。 実際に店頭の店員が、来ているお客さんの名前と顔、どういう本が好きかということにたいお客さんの名前と顔、どういう本が好きかということにたいお客さんの名前と顔、どういう本が好きかということにたいお客さんの名前と顔、どういう本が好きかというとにたいお客さんの名前と顔、と言葉は非常に悪いですけあとひとつは、読者管理というと言葉は非常に悪いですけあとひとつは、読者管理というと言葉は非常に悪いですけ

よくわかるわけです。

店で言ったら七階のコミックのスリップを見たときに、「や しに見ているだけでも……。具体的な話をしたらわかりやす とと機械化とは、厳密に言うと違う話なんですね。つまり、 福嶋 コミック市場というのはほとんどそうなんですよね。それが はり日本の出版界は音羽と一橋が回しているのか」と思った。 身がやったわけです。極端な話を言うと、 たとえばうちの くていいと言っているのでやらせられないから、初めて私自 に、私はほかの社員には、スリップはとりあえずさわらな 音羽も一橋も。電子POSでやるから送れと言ってきたとき かしにしていたんですよ。当然、送れと言ってきますよね、 いと思いますが、仙台で、とりあえずスリップはほったら の話もわかるところがあって、たまたまスリップを何の気な たことができている部分もあるんですよね。確かに今泉さん いままではできなかったわけです。いままでできていなかっ おりだと思いますが、書店員のレベルが落ちているというこ ただ、議論を分けたいんです。私は両方ともそのと

に言うと、画面上ではわからない。だから結局は、それを客さんが来たのだなという痕跡にはなるわけです。それは逆な」というのがわかる。文庫と専門書を買う、こういうおていますから、「これはひょっとしたら一緒に買われたのか別な話をすれば、スリップというのは抜いた順番に置かれ

だと思います。やったことによるメリットとデメリットとをどう判断するか

は。 なっと激しい言い方をすれば、私は二、三年前から、こ もっと激しい言い方をすれば、私は二、三年前から、こ もっと激しい言い方をすれば、私は二、三年前から、こ もっと激しい言い方をすれば、私は二、三年前から、こ もっと激しい言い方をすれば、私は二、三年前から、こ もっと激しい言い方をすれば、私は二、三年前から、こ

東池 いま福嶋さんが言われた、要するにコンピュータの使 対方だということは、まったくそのとおりだと思います。 い方だということは、まったくそのとおりだと思います。 いるだけではだめで、出版社の場合はどうするかというと、 いるだけではだめで、出版社の場合はどうするかというと、 いるだけではだめで、出版社の場合はどうするかというと、 いるだけではだめで、出版社の場合はどうするかというと、 とです。そうすると、たとえばディリーの単品の分析が画面 とです。そうすると、たとえばディリーの単品の分析が画面 とです。そうすると、たとえばほかの書店ではダーッと売 とです。そうすると、たとえばほかの書店ではダーッと売 とでする。 とです。そうすると、たとえばにかの書店ではダーッと売 とですると電話一本入れただけでも、「あ、それは切らした ままにしています」とか、「いま発注しています」とか、そ ういう答えが返ってくる。原因が必ず探れるわけです。 ですから、データ上でまずおかしいところを見て、何だ

> 頼り過ぎてしまうとパーになりますね。 頼り過ぎてしまうとになる。何だろうかというときに書店さんろうかということになる。 が、実践の場面である現場と照合するわけです。それで初いのか、あるいは全然違うジャンルのところに置いてあるのいのか、ま践の場面である現場と照合するわけです。それで初か、実践の場面である現場と照合するわけです。それで初いのか、ところで品切れにしたままなのか、展示の仕方がよくないのか、ところうかということになる。何だろうかというときに書店さんろうかということになる。何だろうかというときに書店さん

ただし、先ほどの今泉さんのお話を聞いていてそうだなと思ったのは、本を扱う以上、やはりどこか自分で興味をもって欲しいんです。それは人文なら人文で、教育でもいいし、小理でもいい。何か自分でちょっとでもいっのでそれを追いかけていってもらうと、たとえばここのみたらわかると言われたけれども、そうではなくて、このみたらわかると言われたけれども、そうではなくて、この分野が好きだから、あるいはこの著者がいいと思ったからというのでそれを追いかけていってもらうと、たとえばここのけストにあるものが生き生きとして、単なる文字の羅列ではなく、生き返ってくる。それで本を棚に入れたり平積みになりしたときに、こういうふうにすればいいのだというのでもいいし、というのでそれを追いかけていってもらうと、かずればいいのでとれた追いかけていってもらうと、ただし、外籍でもいいし、田舎は、本を扱う以上、やはりどこか自分で興味をもったがしているでものがような書店人になるのだろうなと思っただし、先ほどの今泉さんのような書店人になるのだろうなと思っただし、大ほどの今泉さんのような書店人になるのだろうなと思っているわけです。

はっきり言ってしまうと、努力をあまりしないで、「おま

るわけです(笑)。しては、カネをかけて高級マニュアルを作って送り出していうような人たちがいる。それで癪にさわるので、人文会とえら出版社がマニュアルを作らないからいけないのだ」といえら出版社がマニュアルを作

ではない人たちをスカウティングするしかないのです。でもではない人たちをスカウティングするしかないのです。でもす。そうなってきたらわれわれとしては、そのなかでそうね嶋 それはそうだと思うんですよ。それは全般的な風潮で

人文書をどう売るか

神現象学の長谷川訳」というのが来るだけでも売れたはずな神現象学の長谷川訳」というのが来るだけでも売れたはずなれはというものを自分で読者に伝えるメッセージが非常に少ないような気がします。担当者は、これから出る本の情報とか、いろいろなかたちでのPOPを人文書でもちゃんとやっなかような気がします。担当者は、これから出る本の情報とか、いろいろなかたちでのPOPを人文書でもちゃんとやったPOPがあるけれども、人文書は少ないですよね。そうたPOPがあるけれども、人文書は少ないですよね。そうないよいのはですよね。内容が難しいということもあるし、おが少ないですよね。内容が難しいということもあるし、おが少ないですよね。内容が難しいというに出ました! 精神ので、「ついに出ました! 精神ので、「ついに出ました! 精神ので、「ついに出ました! 精神ので、「ついに出ました! 特別のではないですよね。そうないのが来るだけでも売れたはずな神現象学の長谷川訳」というのが来るだけでも売れたはずなが少ないようないを表すが表している。

いのですが、表現ができていない。 難しいという偏見を持たれている。別に難しくもなんともなんですよね。そういうものに対する努力が少なくて人文書は

と思いますね。れはやってくれみたいなかたちでおやりになったらどうかな講談社などはかなりやっています。そのぐらい、これとこで売ってくれ」というようなかたちのものを作ってしまう。このさい、人文書も、「この書店はこういうPOPを付け

司会 まず置いてくれないよね。

今泉 だから当然、そういうPOPも含めて、これはこう今泉 だから当然、そういうPOPも含めて、これはこうだからということを踏まえた、いう内容で、お客さんはこうだからということを踏まえた、いう内容で、お客さんはこうだからということを踏まえた、いう内容で、お客さんはこうだからということを踏まえた、いう内容で、お客さんはこうだからということを踏まえた、いう内容で、お客さんはこうだからということを踏まえた、いう内容で、お客さんはこうだからということを踏まえた、と自分の好き勝手にやればいいと思うんです。

いというのは言い過ぎですけれども、POPというのは、す。本そのものの装丁で十分勝負できると思います。大嫌さんとは一線を画するところで、私はPOPが大嫌いなんで回ってくるんですよね。編集者はそういうものに慣れていな回ってくる人ですよね。編集者はそういうものに慣れていな画、人文書の場合は、そういうのはだいたい編集担当者に

いやなんですよ。 下手をすると展示している本を隠してしまうんです。それが

てくださいということです。これは看板にしても何にしても 中だということで、そこの書店さんの売り方に合わせてやっ うにして展開して欲しいというメッセージが書店さんに届く うにして展開して欲しいというメッセージが書店さんに届く うにして展開して欲しいというメッセージが書店さんに届く うにして展開して欲しいというメッセージが書店さんに届く かけでしょう。それを使うのは自由だし、使わないのも のよ ですが、ときおりPOPを手作りしたり印刷屋に頼んだりし な、片方にはそういうものを作ってくれという今泉さんのよ うにして展開して欲しいというメッセージが書店さんに届く かけでしょう。それを使うのは自由だし、使わないのもり かけでしょう。それを使うのは自由だし、使わないのもり ないらい。

いう、叱咤激励だと私は思いました。いのだから、出版社としてはそういう努力も惜しまずやれとただ、いま今泉さんがおっしゃったのは、これだけ厳し

そうです。

福嶋 けっこうコストがかかるんじゃないですか。

菊池 かかりますよね。

のへんがずいぶんのんびりしているなと思うときがあります。りいいと思いますね。別に好き嫌いではなくて、本屋はそれを見せるよ」というものがあったほうが、大多数はやはどはわからないでしょう。だから、「これを売りたい」「こ今泉 だって人文書などは、自分で取ってみなければ中身な

人文書の読者はどこにいるか

いますが、そのへん現場でやっていらっしゃってどうなんではんできて、書き手のところから売り手の話になったのですが、基本的には読者とどういうところでつながるかというテーが、基本的には読者とどういうところでつながるかというテーは要らなかった」という意見もあるのではないかと思います。人文書を読む読者の変貌というものもあるのではないかと思います。人文書を読む読者の変貌というものもあるのではないかと思います。人文書を読む読者の変貌というものもあるのではないかと思います。

福嶋 問題点をちょっとそらすようだけれども、いま時事的本は、まさに著者の発しているメッセージにコントロールできなければだめだと思っているんです。マインドコントロールできなければだめだと思っているんです。マインドコントロールできなければだめだと思っているんです。マインドコントロールできなければだめだと思っているんです。マインドコントロールできなければだめだと思っているんです。マインドコントロールできなければだめだと思っているメッセージにコントロールである。

けない。マインドコントロールされているというのは、要福嶋 結局、自分は何者かということを常に問わなければい

しょうか。

を読んで生きる権利も死ぬ権利もひょっとしたらあるのかもらいになってきたほうが、本当はいいのであって、その本以降ですか、ひょっとしたら本が凶器かもしれないというぐ断でしょう。極端な言い方をすると、「完全自殺マニュアル」するにいまの自分が本来の自分ではないという、ひとつの判

ですから、人文書に限らず、ビジネス書もそうだと思いまのことを別に怖がる必要もないし、裏返しの意味で、ひょっのことを別に怖がる必要もないし、裏返しの意味で、ひょっのことを別に怖がる必要もないしているんですよね。それていたかというと、『危ない銀行・危なくない銀行』ですす。去年、われわれがオープンしたときに何がいちばん売さしたら本を売るという可能性もまだ出てきない銀行』ですったが、人文書に限らず、ビジネス書もそうだと思いまったが、ます。

人文書は変わっていく

しゃったビッグネームがなさすぎるということです。前に話

もうひとつは、影響力を与える本、先ほど今泉さんがおっ

うこともあるし、懐ろ具合もあるし、 そのうちに忘れてし 店にそんなにしょっちゅう行けない人が多くなっているとい ある本を買おうと思ったときにその関連書が棚にうまくピタッ さらに探究したくなるということで波及していくわけです。 をもっていれば、その本のもとになっているリソースをまた られたものを大いに読みたくなることです。本がひとつの力 本に非常に興味をそそられる、あるいは参考文献として挙げ 書です。つまり、ある本を読んで、そこに引用されている わったかというのは明確には言えないけれども、人文書の売 鈴木さんのほうからも提案があった、人文書の読者がどう変 まう。そのへんに問題がまずひとつあると思います。 ないとなると、やはりいまの読者は買ってくれません。書 ることになります。しかし、行った先に何ひとつ置いてい と入っていると、「ついでにこれも」というかたちで買われ ん関係あります。しかし、もうひとつ考えられるのは関連 れ方というのは、書店の棚の構成の仕方や見せ方にももちろ 直接的な利益のないのが人文書なんですよね。先ほど司会の るかということで言えば、端的に言ってしまうと、むしろ ここで議論している人文書の読者、あるいは人文書をどう売 自分の経済事情とか、そういうものに直結するものでしょう。 いまの銀行の話と復讐の本は、社会的な事件とか、

ろなジャンルがあるから、読んでいない教師がいてもしょうろなジャンルがあるから、読んでいない教師がいてもしょうの確か百冊ほど売れたという話があります。駒場にはいろいたときに、教授会のなかで中沢新一とは誰だというのでたちまち『言葉と物』が二千部か四千部売れたというのでたきま、『言葉と物』が二千部か四千部売れたというのでと物』を読んでいないやつは思想のもぐりだ」と言ったら、と物』を読んでいないやつは思想のもぐりだ」と言ったら、と物』を読んでいないやつは思想のもぐりだ」と言ったら、と物』を読んでいない教師がいてもしょう

がないのですが。

大をしてもらえるような関連づけの方法がもうひとつ作れれないのですが、やはりこれ抜きでは人文書というのは語れはないのですが、やはりこれ抜きでは人文書というのは語れないわけです。いま、ひとが一番なにを読みたいのか、そないわけです。にから、まずひとつは、出版社側にはそ流れがあります。だから、まずひとつは、出版社側にはそないわけです。だから、まずひとつは、出版社側にはそないわけです。だから、まずひとつは、出版社側にはそないわけです。だから、まずひとつは、出版社側にはそないわけです。がまるとにしながら探っていく必要が出めます。だから、まずひとつは、出版社側にはそれをもいるということは差し当たり、それをうなといって、何かに役立つということは差し当たり、人文書の基本は知的なものへのあこがれです。別にそれを人文書の基本は知的なものへのあこがれです。別にそれを人文書の基本は知的なものへのあるがれてす。別にそれを

んがカルチュラル・スタディーズの話をされました。たまたそれから、少しまとめて言ってしまうと、先ほど福嶋さ

ばいいのではないでしょうか。

連性のなかに置かれているわけです。

連性のなかに置かれているわけです。

連性のなかに置かれているわけです。

さころですが、なぜま私がいまいろいろ仕掛けてやっているところですが、なおおいてみんな生きているわけです。それでいながら、おちろん世界はこれだけグローバル化しているというか、ひとつの経済が破綻すると全世界がバーッと破綻していくようとつの経済が破綻すると全世界がバーッと破綻していくようとつの経済が破綻すると全世界がバーッと破綻していくような時代になってきているわけだから、ひとつの大きな相互関ないまいるに関係があり、ない意味で言うと、冷戦構造が崩れたこと、それからマルクい意味で言うと、冷戦構造が崩れたこと、それからマルクいるかけです。

もったところから出てきた人たちがいま、カルチュラル・スないるからではないか。だから、マルクス主義的な指向をはれるないの自家撞着みたいなものから脱して、もっと全いある種の知の自家撞着みたいなものから脱して、もっと全とつはポストモダン的な、西洋先進諸国だけでしか通用しないある種の知の自家撞着みたいなものから脱して、もっと全世界的なレベルで、自分が生きていること、自分の身体的な地平みたいなものから道として出てきたとすれば、ひたいという欲求が、新しい問題としてどこかですくい取られたいという欲求が、新しい問題としてどこかですくい取られたいという欲求が、新しい問題としてどこかですくい取られたいという欲求が、新しい問題としてどこかですくい取られたいという欲求が、新しい問題としてどこかですくい取られたいという欲求が、新しい問題としてどこかですくい取られたいという。

タディーズをやっているわけです。

そうすると、いまの世界経済の破綻の問題から民族間紛争、そうすると、いまの世界経済の破綻の問題から民族間紛争、たう社会科学を含めて、対応できるような新しい理論の要請が出てきたわけです。そういうところを突破口にして、たるばポストコロニアルの問題とか、いままでにない新む。そういうものを総合的につかんでいくようなひとつの調査。これはもちろん人文書という範疇に入れていいと思うけれども、いわゆる人文書のイメージを超えて、経済学の問題でもあるし、地球環境の問題でもありますよひと口に言えばグローバリゼーションの問題でもありますよひと口に言えばグローバリゼーションの問題でもありますよる。そういうものを総合的につかんでいくようなひとつの潮る。そういうものを総合的につかんでいくようなひとつの潮る。そういうところを突破口にして、たとえばポストコロニアルの問題とか、いままでの人文科学なり社会科学を含めてよく見えてこなかった部分が見え始めているのではないか。そういうことを私は二十一世紀に向けての希望としてもっています。

たり、ある面では突出していく部分が出てきてもいいのですのエネルギーが出てくる。そこからまた細かく分化していっ蛮なかたちである種の統合がおこなわれていくなかでひとつ学問がみんな細分化され尽くしてしまったところで、少し野五年ぐらいはほとんど見るべきものがなかったのではないか。らと増えたけれども、いわゆる知の部分としては、この十らと増えたけれども、いわゆる知の部分としては、この十らと増えたけれども、いわゆる知の部分としては、この十八〇年代から九〇年代の湾岸戦争以後、冷戦構造が崩れ、八〇年代から九〇年代の湾岸戦争以後、冷戦構造が崩れ、

じられるわけです。的な地平から知を再構築していくような動きが、ちょっと感的な地平から知を再構築していくような動きが、ちょっと感しまったのだというような関係のなかで、やはり自分の身体が、あまりにも細分化して、 人間はいったいどこへ行って

福嶋 そのときに、要するに人文書というものの定義が変わってしまっている。本当は常に乗り越えられてきたんですよね。それが取り込まれてきて、カルチュラル・スタディーます。それが取り込まれてきて、カルチュラル・スタディーます。それが取り込まれてきて、カルチュラル・スタディーます。それが取り込まれてきて、カルチュラル・スタディーます。それが取り込まれてきて、カルチュラル・スタディーます。それが取り込まれてきる。 つまり、人文書ということのはいつも、自分は何か、あるいは何でないかということを語り続けなければいけない、人文書とは何かということを語り続けなければいけない、人文書とは何かというのに義が変わっなに言うと後知恵でしかないような気がする。そうであってと思いた。

ではないかもしれないけれども、私のもっている不満はそこすべてつながりがあるという方がやはり面白いと思うんです。がキンルを細分化していって、ここから向こうは別のジャンジャンルを細分化していって、ここから向こうは別のジャンジャンルを細分化していって、ここから向こうは別のジャンラいろいろなものを取り込めてしまう器が人文書であるという、古谷 そうも言えるし、もともと出発したところからいくと、西谷 そうも言えるし、もともと出発したところからいくと、

それなのにわりあいタイトルだけで……。 とれなのにわりあいタイトルだけで……。 だいんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。ジュンク堂も十数年経って、若い人になればなんですよ。

らったら、パッと見てみるとほかとのダブりが非常に多いの今泉さんとは別の書店さんにこの批評のジャンルをやってもが言っているように、やはり批評だと思うんです。今回もまりでこの数年でやったことというと、先ほどから西谷さんれれれは人文会という、人文書を出している出版社の集

ました。間ができるのだなということを、このリストを見ていて思いだけれども、結局全部取り込めてしまう。それで面白い空

個も変わっていない。 西谷 ただ残念なのは、五年経って、この基調の分類が一

協力してもらわないといけない。

動きの早い人文書とネットワーク作り

要になるでしょう。 とすごく動いているのだから、また五年後には別の分類が必だんだんだめになってきているものもあります。五年も経つども、必然性があって成長してきているものかもしれないし、ども、必然性があって成長してきているものかもしれないし、というのは、すぐまた廃れるための流行りだったら困るけれ

とか、文部省とか大学の助成金とか、そういうものでやらは、そもそも出版されないんですよね。だいたい自費出版いうのがあって、その枠のなかでしか読まれないようなものいうのがあって、その枠のなかでしか読まれないようなものいうのがあって、その枠のなかでしか読まれないようなものいうのがあって、その枠のなかでしか読まれないようなものいうのがあって、その枠のなかでしかいまって、そこからテすよね。ひとつの切り口ですっぽり収まって、そこからテすよね。ひとつの切り口ですっぽり収まって、そこからテすよね。ひとつの切り口ですっぽり収まって、そこから表情にある。

いです。 てしまっている傾向が強い。そういうものはだいたい売れなざるを得ないし、書き手のほうもほとんどそれに自足しきっ

書店ではないかと思うんです。 書店ではないかと思うんです。

書店アンケートのなかでどなたかが言っていたように思うけきの力ではとうていできないわけです。むしろ書店は、なりを作る可能性はあるけれども、大きな潮流を作るにはひの編集者が作り出すものが小さいなりにある傾向性なり流れの編集者がいて、そもそも時間がかかるし、量を作るにはいずれ限度が出版社というのは、多少それに類することはできるけれど出版社というのは、多少それに類することはできるけれど

です。

パッと見るだけで並べられる。れども、本の「まえがき」と「あとがき」と著者の略歴を

今泉 言っていましたね、奥付と。

歴などの紹介に、他社から出版されたその著者の代表な仕事 てみれば基本的に細いネットワークでつながっていて、それ ができるわけです。専門書とか人文書の読者の情報は、言っ を出さないところが多いんです。他社で出したその著者のい をつけたことがありますよね。出版社によっては、著者略 ジャンルなのか、それも、複数のジャンルが記されている 関連書で触発されるというのは案外大事なネットワークなん は絶対買わなければいけない」ということになるわけです。 が複数のチャンネルを伝わって入ってきたりしたら、「これ い仕事を紹介することによって、その本が売れる環境づくり ような新刊案内を作っていない出版社が多すぎるとクレーム 書店に出す出版社の新刊案内で、たとえばこの本はどういう を十分に提供していない可能性がある。昔、今泉さんは、 いということがひとつ。それから出版社も、そういう情報 てくれている書店人がそもそもどのくらいいるのかわからな 西谷 それは昔から基本だと思いますが、そういう努力をし

によって、読者への道案内というか、ルートをつける努力かの出版社とも広い意味で友好的にネットワークを組むことめぐらせられるように、自社だけに閉じ籠もらないで、ほ出版社は、まずそういうネットワークを少しでも多く張り

の観点からではない読者の再組織はやはり怠らないことでしょの観点からではない読者の再組織はやはり怠らないことでしょれる、そういう協力をしてもらえるといいと思います。世の中にはいろいろなカタログはりブックリストみたいなものがありますが、かなり信用度なりブックリストみたいなものがありますが、かなり信用度なりブックリストみたいなものがありますが、かなり信用度なりブックリストみたいなものがありますが、かなり信用度なりブックリストみたいなものがありますが、かなり信用度なりブックリストももだって、世間では、

ていないのがあるんですね。作が入れてあるけれども、不親切なのは、出版社名が入ってが入れてあるけれども、不親切なのは、出版社名が入っ司会。確かに奥付なりカバーの袖のところに著者の略歴と著

うね。

今泉 それは本屋が困るんですよね。

いけれども、書名と出版社名ぐらい入れておくと、奥付ないけれども、書名と出版社名ぐらい入れておくてもいて、まだ在庫があるという答えを聞くと、「じゃあ買おうか」という気になるわけです。だけど、本屋の人も出版社名まて、すいつい面倒臭いからほったらかしになってしまう。出版社はどこだったろうか」というのでその出版社に問い合わせこから出ているのだな」というのでその出版社に問い合わせるから出ている場合は、「ああ、そうか。あそ菊池 出版社名が入っている場合は、「ああ、そうか。あそ

います。いま西谷さんの話を聞いていて私もそう思いましたりカバーの袖のところの著者略歴が本当に生きるだろうと思

ね

です。 おいます。 そういうことを考えると、個々の編集はない人もいます。 そういうことを入文書のようなものを出版している出版社同士は、同じ著者が未來社でもなものを出版している出版社同士は、同じ著者が未來社でもなものを出版している出版社同士は、同じ著者が未來社でもなものを出版している出版社同士は、同じ著者が未來社でもなものを出版している出版社同士は、同じ著者が未來社でもならして共同作業をやっていることを考えると、個々の編集はない人もいます。 そういうことは大事なのではないかと、いま西谷さんのお話を伺っいうことは大事なのではないかと、いま西谷さんのお話を伺っいうことは大事なのではないかと、いま西谷さんのお話を伺っいうことは大事なのではないかと、いま西谷さんのお話を伺っいうことは大事なのではないかと、いま西谷さんのお話を伺ったりして、

棚の表現に合わせて送ることも必要ですね。すよということでジャンルを二つか三つ示して、書店さんの菊池 それと書店さんへの新刊案内で、こことここに置けま西谷 人文会で各編集部あてにそういうお願いを……。

菊池(うちでもときどき担当者が、ファックス通信で、そし出していくということも本当は必要ですよね。性があるかということを、書店の店頭をイメージしながら押がよく言われるわけです。つまり、どの本といちばん関連西谷(他社の本の、この本の隣に置いてくださいということ

いって、書店さんはある程度喜んでくれますね。になりますが、ミニコーナーを作ったりするときに役立つとせて送るんです。よその出版社の宣伝をしてあげていることの人の著作はここからも出ていますよというのをダーッと載

人文書とインターネット利用

ンクの仕方がある。 別のテーブルがあって、そこにすぐに飛んで行けるようなり別のテーブルがあって、そこにすぐに飛んで行けるようないからないのですが、いわばコンピュータのイメージで言えば、という気もするんです。どういうものがイメージできるかわ集することだから、別の仕方でリンクしたほうがいいのかな集することだから、別の仕方でリンクしたほうがいいのかな福嶋 そうですよね。ただ、編集者の仕事は一冊の本を編福嶋 そうですよね。

は粗っぽく「大型店は人文書にとっていいはずである」と実際にモノがあることももちろん大事だし、そういう意味でおいがどこかになければいけない。そういうものがあると、をの知識をもっている方々と読者とのそれぞれのネットをイをの知識をもっている方々と読者とのそれぞれのネットをイをの知識をもっている方々と読者とのそれぞれのネットをイをの知識をもっている方々と読者とのそれぞれのネットをイをの知識をもっている方々と読者とのそれぞれのネットをイをの知識をもっている方々と読者とのそれぞれのネットをイをの知識をもっている方々と読者とのそれぞれのようになったらしている方々と読者というには、私に対している方々というというではないである」と、大事なのはインターネットそのもではないである。

それを見せられるということです。に、物量的に固めて並べられるということだと思います。書いたのですが、それは先ほど西谷さんがおっしゃったよう

ています。 ようやく業界全体も重い腰を上げてきたのかなという気はし版VAN構想が結局はそれであるわけです。そういうことで、にかに接続すれば、同じように応対できる何かがある。出こかに接続すれば、同じように 対できる何かがある。出

高度化する。たとえばある著者のテーマに関連するところに たませんが、そこで情報を互いにリンクするのをもっと がにはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地にはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地にはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地にはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地にはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地版社はこれから、インターネットしかないんで りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるほどの代 りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるほどの代 りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるほどの代 りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるほどの代 りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるほどの代 りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるほどの代 りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるほどの代 りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるほどの代 りあるらしいけれども、まだ購買意欲をかき立てるところに かにはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地版社はこれから、インターネットのホームページによる開 かにはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地版社はこれから、インターネットのホームページによる開 かにはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地版社はこれから、そこで情報を互いにリンクさせながら、先ほ がにはなっていない。だけど出版社として、とくに専門書 地版社はこれから、そこで情報を互いにリンクさせながら、先ほ がにはなっていない。これを表するのをもっと

リンクしていけるようにして、次々と発見できるようにする。

うしても全部欲しいと思っている読者がいるわけです。そう てくるような仕組みですね。書協のところではまだこれから 条件を入れて検索すれば、リンク先から全部そこに集約され データがある程度たまると、そこに見に行ってもらってある けではない、そういう状況のなかで、このテーマの本はど だってすべて出るわけではないし、出た本も全部見ているわ えばあるテーマに非常に特化した関心をもっている人が、B ムページも続々と増えています。 ムページが開かれるという大きな一歩は示していて、いまホー らしいけれども、いちおう去年の九月にBooksというホー いう人にメールでお知らせする。そこまでいかないまでも、 の情報もそんなにキャッチしているわけではない、新聞広告 わけです。書店に毎日毎日通えるわけではないし、 出版社 テーマの本が出たら教えてくれ」というのがEメールで来る ooksならBooksが発信源でもいいのですが、「この それから、このまえ、あるところで話が出たのは、たと

ぱい名乗りをあげているわけです。大手はいろいろ人材がい出版社とか、まだ名も聞いたことのないようなところがいっでやっているのですが、四十年、五十年の社歴をもっているのですが、四十年、五十年の社歴をもっていないんです。おとは、中堅出版社が、ホームページを作るのが案外遅あとは、中堅出版社が、ホームページを作るのが案外遅

いるというのがまず問題です。 買いたいという人を相手にしている出版社がいちばん遅れて でいる。この著者のものとか、このテーマのものを確実に という衝動買いではなく目的買いだし、テーマがはっきりし とも活用できるはずなんです。 つまり、 専門書の読者とい のような専門書出版社こそが、本当はインターネットをもっ のような専門書出版社こそが、本当はインターネットをもっ のような専門書出版社こそが、本当はインターネットをもっ

もってもらいたいと思います。 もってもらいたいと思います。 を社がホームページにリンクするとか、そういう、商売に直 とれが、まるの掘り起こしに結びつくような努力 は絶対に必要です。これがいま人文会でどこまで進められて は絶対に必要です。これがいま人文会でどこまで進められて は絶対に必要です。これがいま人文会でという、商売に直 とか、そういう、商売に直 とか、そういう、商売に直

すから、この一、二年あたりで……。そろ重い腰をあげる時期に来たという感じはしています。でそろ重い腰をあげる時期に来たという感じはしています。そろ菊池 西谷さんのいまの提案に基本的に賛成で、うちも遅れ

りますし、手間ひまもかかります。それから、やる以上は、つまり、うちの場合は貧乏だから。お金はそれなりにかか菊池 ええ、ないんですよ。考え方がいろいろあるから。司会 筑摩さんはなかったんですか。

アクセスして面白いというか、それなりに役に立つようなも

から動くべきだというのがあります。のをメンテし続けなければならない。そういう体制を整えて

いとまずいと思います。 ができるかどうか。こういう仕組みをそろそろ作っていかな 飛ばすことができるかどうか。さらに各出版社に飛ばすこと たとえば人文会という、もう少し特化されたホームページに ということはわかる。それだけでは物足りないというときに、 いうところまではやれないのですが、絶版か絶版ではないか いるのかしていないのか。リアルタイムの品切れはどうかと ば、最低限の情報は得られるわけです。つまり、流通して それをベースにしたホームページに読者がアクセスしてくれ の時点でそういう情報が集約できるようにする。とりあえず にできるだけ電子情報で各出版社から送ってもらい、発売前 うというのです。それと同時に新刊情報は、発売三週間前 どんどん追いかけて突っ込んでいって、やっと追いつくだろ を聞いたら、来年早々ぐらいにはその後出てきた本の情報を 報は入っていません。この間、それを担当している人の話 ところが、ちょっと作業が遅れていて、その後の新しい情 その時点で稼働している五十何万点かを叩き込んだわけです。 スというぐらいの基本的な条件だけを突っ込んで、いちおう のホームページのBooksは、データベースのデータベー まず業界のことで考えると、西谷さんがおっしゃった書協

だんだん熟してきたかなという感じは私もしています。 もうひとつは、そろそろ商売になるかもしれない。 機は

菊池(そうなんですね。でも、ともかくベースになる書協福嶋(ユーザーの数が問題ですからね。)

ことには、いちばんアクセスの多いところが動いてくれないのホームページがきちっとした状態で立ち上がってくれない

いかなければいけない時代になりつつあると思います。恵がついてきているようですから、やはり次はそこを考えてとかいう問題もあるようです。そのへんはだんだんみんな知り方によって高かったり、作ったけれどもなかなか開かないそれから、プロバイダーもいろいろいるものだから、やことには先走ってもしかたがない。

書店と宅配システム

では困る。情報を得るために来て、こちらは何もわからないということ意識しなければいけないのだろうなと思います。それを見て福嶋(われわれも結局、ユーザーがかなり増えていることを

す。「あれはすごく便利で、ファイリングしていると聞かれくださいよ」と言ったら、「もうやめたんです」と言うんでたから、講談社の方が来たときに「あれをうちにも送ってたから、あえて言ってしまいますと、講談社が「来月出るかといってハードコピーによる情報もおろそかにはして欲しかといってハードコピーによる情報もおろそかにはして欲しかといってハードコピーによる情報もおろそかにはして欲しかといってハードコピーによる情報もおろそかにはして欲しただひとつだけ、これは要らぬお願いだと思いますが、

それはそれで残して欲しいわけです。で怒ったんです。ファイリングで十分に使えていたものは、ている店が、日本に何軒あると思っているんですか」と言っ店の店頭で聞かれるたびにホームページをのぞける状態になっ店の店頭で聞かれるたびにホームページをのだける状態になったかる店が、日本に何軒あると思っているんですか」。だから私は、「書れている人はそんなにいないですから。どうしても必要だってわからないときによかったんですよ」「いやー、使ってくてわからないときによかったんですよ」「いやー、使ってく

福嶋 そうなんです。

たいると言っていました。それがいまどのくらいになっていまうないのかわかりませんが、ああいうところは物流と集金のシステムができると、完全に本はヤマトで買う。リとかうシステムができると、完全に本はヤマトで買う。とかわかるからリピーターになるのですが、個別出版社に電話をかければ送ってもらえるということがわかるからリピーターになるのですが、個別出版社だとがわかるからリピーターになるのですが、個別出版社に電話をかければ送ってもらえるということがわかるからリピーターになるのですが、個別出版社に電話をかければ送ってもらえるということがあったらいでもヤマト運輸のホームページに行けるとがわかりませんが、ああいうところは物流と集金のシスるのかわかりませんが、ああいうところは物流と集金のシスのかわかりませんが、ああいうところは物流と集金のシスのかわかりませんが、ああいうところは対しているのでは、

忙しい人ほどそうなります。 可も全部ヤマトで流れるわけではない。 が売れるわけです。そういうのは日本では現実的には不可能が売れるわけでしょう。山の上であってもどんなところのほうろでも、広いスペースで在庫を全部もっているところのほうろでも、広いスペースで在庫を全部もっているところのほうというか、そのうちになるかもしれませんが、いまのとこというか、そのうちになるかもしれませんが、いまのところ棲み分けはできると思います。 また、そういう人ほどよくけではない。

つは携帯性、ポータビリティ。コンピュータと比べて重い門書の場合は、ポイントが三つあると思っています。ひとそれと、本というものの最終形態、とくに人文書とか専

ページで注文を取るようになったら、毎月倍々ゲームで増え西谷(だから「本の宅急便」が、インターネットのホーム

必要になりますから、比較しようがないわけです。とか軽いとかという話にすぐなりますが、たとえば「広辞との別だったら、いちいちパソコンから電源から道具が全部が、普通の単行本のような形式のものであれば、多少持ところではそれはできるかもしれない。そういうものは別でから、一種の単行本のような形式のものであれば、多少持ところではそれはできるかもしれない。CD―ROMを一枚の別ではいたのであれば、多少持との別だったら、いちいちパソコンから電源から道具が全部とか軽いとかという話にすぐなりますが、たとえば「広辞とか軽いとかという話にすぐなりますが、たとえば「広辞との軽いとかという話にすぐなりますが、たとえば「広辞

装幀から何から含めてある種のアウラとして……。 、人間の頭脳はある面ではファジーだから、「読みたいと さ、人間の頭脳はある面ではファジーだから、「読みたいと を、人間の頭脳はある面ではファジーだから、「読みたいと を、人間の頭脳はある面ではファジーだから、「読みたいと を、人間の頭脳はある面ではファジーだから、「読みたいと を、人間の頭脳はある面ではファジーだから、「読みたいと

西谷 フェティッシュとまではいかなくても (笑)、やはり今泉 フェティッシュ。

アウラをもっているわけですよ。この装幀でなければいけな

いというのもある。

西谷(それは将来的に大事なものとして残るかどうか知らな今泉(ノスタルジー(笑)。

らいは本という形態は絶対に残るだろうし、残って欲しいと二十二世紀ぐらいになるとわからないけれども、あと百年ぐあったとしても、最終的には書店に行ってちゃんと確かめてあったとしても、最終的には書店に行ってちゃんと確かめてすると、いい書店は絶対に生き残る。どんなにバーチャル・すると、いい書店は絶対に生き残る。どんなにバーチャル・けれど、とくに愛着をもつ本というものの個別の形態性といけれど、とくに愛着をもつ本というものの個別の形態性といけれど、とくに愛着をもつ本というものの個別の形態性と

いと。画面に丸印を付けたってしょうがない(笑)。手軽に書き込みができたり、印をつけたりすることができないまハードコピーという話が出たけれども、やはりサッと

いうところがあります。

大型書店の可能性

かも疲れてきたら、椅子に腰掛け、コーヒーを飲みながら者が直に買いに行って楽しめる。豊富な在庫があって、しけですね。この間、三番目の大型チェーンであるクラウンけですね。この間、三番目の大型チェーンであるクラウンけですね。この間、三番目の大型チェーンであるクラウンけですね。この間、三番目の大型チェーンがあると、ボーンズアンドノーブル」、「ボーダーズ」がどんど菊池 アメリカを見ていると、「アマゾン・コム」がありな菊池 アメリカを見ていると、「アマゾン・コム」がありな

入してきて、ある程度成功していると思います。ではなく、そういう方向でアメリカの超大型店のやり方を輸ているわけです。日本の大型店は、ジュンク堂さんばかり本を読める。そういう一日楽しめるような状態の店が成功し

がつくと、レジで万の単位でお金を払わされるはめになるがつくと、レジで万の単位でお金を払わされるはめになるも便利は便利だけれども、大型店に行って、目の前にいろも便利は便利だけれども、大型店に行って、目の前にいろもで利は便利だけれども、大型店に行って、目の前にいろもで利は便利だけれども、大型店に行って、目の前にいろもでおうあれも買っちゃおうと、実際にコンピュータでホームページの画面をそうすると、実際にコンピュータでホームページの画面を

けですよね。(笑)。でもそれは、本が好きな人たちにとっては楽しいわ

福嶋 でも成功をしているかどうか、結論は……。 にはいいことだと思います。 ただし、そのときに品揃えのにはいいことだと思います。 ただし、そのときに品揃えのに入文書のようなものについては方法論がまだ身に着いていたがら、損をしていらっしゃる。 そういう書店さんがそないから、損をしていらっしゃる。 そういう書店さんがそないから、損をしていらっしゃる。 そういう書店さんがそないから、損をしているような人文書にとっては基本的らどんどん盗めばいいのになと思うんですけどね(笑)。 今泉 ジュンク堂さんの成功の秘密をね。 でも成功をしているかどうか、結論は……。

本を読まない世代の出現

的なことです。子どもを見ていると本を読まないですよ(笑)。これは決定子どもを見ていると本を読まないですよ(笑)。これは決定今泉、ひとつだけ言いたいのは、そうは言っても、自分の

ですよ。 り悲観的ではないでしょうか。私はそんなに楽観していないおを創造しようという次の種を播いているわけですが、かな今泉 確実に読まなくなってきました。 一方で、新しい読菊池 私の子どももそうなんです。

東海 一時期、やはりこの出版界にもバブルがあって、 大〇年代、七〇年代はみんな見栄で全集を買ってきたり、 がおっしゃったように、「こんなの知らないのか」と言って がおっしゃったように、「こんなの知らないのか」という気がする かけづくりはあると思うんです。

という思いはありますよね。
て、何らかのかたちでいい挑発をうまくやれないものかなあて、何らかのかたちでいい挑発をうまくやれないものかなあも、少し本の世界を知っている人たちが若い人たちに向かっも、少し本の世界を知っている人たちが若い人たちに向かっで手取り足取りやる必要があるのかどうかわからないけれど呼び戻すきっかけづくりになっているものができない。

菊池(うん、そうだね。 この業種を後継者に渡せますかということです。 今泉(端的に言ってしまうと、われわれ書店とか出版社が、

菊池 それはある程度認めます。 今泉 私はそこが言いたい。かなり厳しい状況に来ている。

兮泉 自分の息子に本屋をやれとは言えない。おそらく西谷

感じをわれわれとしてはもっているわけです。えないと思います。そのぐらいのところまで来ているというさんだって自分の息子に、「おまえ、出版社をやれ」とは言

状態ではないだろうかと思います。 状態ではないだろうかと思います。 大態ではないだろうかとりあえずカットされているというでも他業界では、一〇%、二〇%、あるいは三〇%落ちてでも他業界では、一〇%、二〇%、あるいは三〇%落ちて前年比で落ち込んだ。今年もまたさらに落ち込んでいる。前年比では書籍の落ち込みがいちばん厳しいわけです。去年も菊池 書籍、雑誌、その他のメディアがあるとすると、統

しまうと、その部分だけですよ。しかし、あとは知らない今泉 私もそう思っているわけです。だからはっきり言ってように、あと百年やそこらは大丈夫ではないか(笑)。心配な部分があるのですが、先ほど西谷さんがおっしゃったそうすると、ここから先どういう状況になるかというので

司会(それでは最後に、皆さんに二、三分でまとめの話を)。

よというところがあるんですよね。

していただきたいと思います。

参なども結局、我慢したほうが……。まったくシェアがなそうだったのですが、端的なのが、学参なんですよね。学いのかどうか、仙台の店において、たとえば京都にしてもはサバイバルでしょう。たとえばこれは人文会で例にしていは場 状況はある程度悲観的だと思いますが、ただ、あと福嶋 状況はある程度悲観的だと思いますが、ただ、あと

あるという状況は変わらないわけです。 は今日たまたま池袋の学参担当者から聞いたのですが、あ 実は今日たまたま池袋の学参担当者から聞いたのですが、あ 実は今日たまたま池袋の学参担当者から聞いたのですが、あ ま後まで粘ったところが、結局は生き残るのではないか。 まるという状況は変わらないわけです。

がそうだと思います。 今日、いろいろな方がお話しになったように、全体の売 かそうだと思います。いままで出そうにもなかった地域にも はころでやって、我慢していたところが、結局は残るの なところでやって、我慢していたところが、結局は残るの にころでやって、我慢していたところが、結局は残るの がそうだと思います。いままで出そうにもなかった地域にも がそうだと思いろな方がお話しになったように、全体の売

います。書を売っていこうという努力そのものは不滅ではないかと思いかと思いますが、少なくともどの現場においても、人文さんにとっても非常に難しい戦略になってきているのではなさのときにどこに手を貸すかというのは、逆に言うと版元

かようにでも生きていけると思うんですよね。全体のパイは今泉 私も同じようなことになりますが、本屋というのはい

いさくなるかもしれないけれども、人文的なものは永遠に消かない。

といないわけで、そのときの立地条件、自分の重点のおき方、を大事にしているか、見えているか、自分自身がそういうを大事にしているか、見えているか、自分自身がそういうを大事にしているか、見えているか、自分自身がそういうを大事にしているか、見えているか、自分自身がそういうを大事にしているか、見えているか、自分自身がそういうを大事にしているかという、非常に基本的な商売のあり方を大事にしているかという、非常に基本的な商売のあり方を大事にしているか、見えているか、自分の重点のおき方、は、かないのようには、何らかのかたちで生き残れるはずだと地味にやっていけば、何らかのかたちで生き残れるはずだと地味にやっていけば、何らかのかたちで生き残れるはずだと地味にやっています。それで死んだら、そのときはあきらめるし思っています。それで死んだら、そのときはあきらめるしいない。

しまう。

しまう。

しまう。

しまう。

しまう。

しいのですが、そういう問題がいちばんストレートにリンクしてけです。これは実存主義ともちょっと違うし、利己主義としいのですが、そういう問題がいちばんストレートにくるわしいのですが、そういう問題がいちばんストレートにくるわ関心が薄れてしまっていて、心の問題を扱うと言ったらおか関心が薄れてしまっていて、心の問題を扱うと言ったらおか関心が薄れてしまっていて、先ほど言った人生の価値といったことにストレートにリンクして安らぎ、人生の価値といったことにストレートにリンクして安らぎ、人生の価値といったことにストレートにリンクして、

はまう。

読んで、実は入社以来、私のネタ本になっているんです。凡社から出た全二十何巻の「現代人の思想」を学生時代にやればいいと思っています。私自身は、昭和四十年ごろ平やり方はいくらでもありますから、あまり無理をしないで

たほど出たクリティックの時代ではないけれども、経済、先ほど出たクリティックの時代ではないけれども、から、参考文献などを思い出してみるわけです。それを見ないますが、これは基本的に変わっていません。いまでもなりますが、これは基本的に変わっていません。いまでもなりますが、これは基本的に変わっていません。いまでもなりますが、これは基本的に変わっていません。いまでもなりますが、これは基本的に変わっていません。いまでもなりますが、これは基本的に変わっていません。いまでもなりますが、これは基本的に変わっていません。いまでもなりますが、これは基本的に変わっています。それを見ない方ので並べてみたりです。

先ほど言ったように自分の足元を見てその持ち場持ち場でいるわけですし、いくらでも道筋はできるのではないからけれども、われわれの経験から言うと、出版社の団体でうけれども、われわれの経験から言うと、出版社の団体でうけれども、われわれの経験から言うと、出版社の団体です人と密着した会は少ないような気がします。そういう面書店人と密着した会は少ないような気がします。そういう面書店人と密着した会は少ないような気がします。そういう面書店人と密着した会は少ないような気がします。そういう面書店人と密着した会は少ないような気がします。と出版社の編集、営業とが一体となって、問題を発見したと出版社の編集、営業とが一体となって、問題を発見したと出版社の編集、営業とが一体となって、問題を発見したと出版社の編集、営業とが一体となって、問題を発見したり新しいテーマに取り組んでいけば、まだまだけっこう面白り新しいテーマに取り組んでいけば、まだまだけっこう面白り新しいテーマに取り組んでいけば、まだまだけっこう面白り新しいからは、対し、出版社の関係を表している。

西谷 本を作る側からしますと、いまの書店の我慢比べみたいな話と同じ事情があります。出版社も、とくに専門書といな話と同じ事情があります。出版社も、とくに専門書といる話者に、数は減っているかもしれないけれども、ことになるのでしょうか。ただ、人文書を書きたい著者、ことになるのでしょうか。ただ、人文書を書きたい著者、この間、七社の会で書物復権の運動に加わってみたのですが、その読者アンケートを読んでいて非常に心強いものを感じました。おそらくそれは氷山の一角にすぎないわけで、やはした。おそらくそれは氷山の一角にすぎないわけで、やはした。おそらくそれは氷山の一角にすぎないわけで、やはした。おそらくそれは氷山の一角にすぎないわけで、やはいな話と同じ事情があります。出版社も、とくに専門書といな話と同じ事情があります。出版社も、とくに専門書といな話と同じ事情があります。

思い込みかもしれませんが。それから最近の著者はほとんどを取使しているところがあるから、それは勝手なこちらのをすることで事足りるという編集者は、手法も含めて、はっきり言っていまはもうだめです。出版業、編集の仕事、あきり言っていまはもうだめです。出版業、編集の仕事、あきり言っていまはもうだめです。出版業、編集の仕事、あきり言っていまはもうだめです。出版業、編集の仕事、あきり言っていまはもうだめです。出版業、編集の仕事、あきり言っています。 万年一日のごとく昔の流儀で本づくりをする。とくに編集度からつかみ、それに合った本づくりをする。とくに編集度からつかみ、それに合った。

能性は捨てたものではない。

は絶対に考えていかなければいけない技法が見いだせると思 いていないのですが、専門書を作りたいという著者と編集者 それをいま私は実践しています。この詳しい話は『本とコ 字をまた校正してということをやっているぐらいなら、 れからがすごい赤字の往復でムダが多すぎる。戻ってくる赤 ら、ある程度の段階で原稿を印刷所に渡してしまうと、 いまの印刷所は昔に比べて技術がかなり落ちています。だか ていればいいというものではありません。はっきり言って、 り込んでいくことができなければいけません。印刷所に任せ 実用的なアドバイスをすることと同時に、自分でもそれを取 から、少なくともエディターは、それにたいしてある程度 フロッピー入稿です。電子情報の原稿を作っているわけです もできるようになってきました。 スト割れして企画が立てられなかったものが、いまは千部で います。いままでは、千五百、二千部、三千部でないとコ ンピュータ』に書きました。そこでは総論的なことしか書 でさっさと直したほうが圧倒的に速く、正確にできます。 自分 そ

と短い間に十部なり二十部なりが売れるというようなものではそれなりに経営に寄与できるようなものになり得る。わりなものです。そういうところといかにきっちりと付き合うか単純に言ったら全国に百とか二百です。あとはおまけみたい単に言ったら全国に百とか二百です。あとはおまけみたいりたって、専門書を置いてちゃんと売ってくれる書店はわれにとって、専門書を置いてちゃんと売ってくれる書店は

いと申し上げたいですね。そのぐらいの厳しさをもつべきだいと申し上げたいですね。そのぐらいの厳しさをもつべきだいなら、はっきり言ってこの業界からさっさと足を洗いなさなしたたかさが、専門書出版社には必要だろうと思います。悪条件をバネに必ず好条件に転化してしまうというようす。悪条件をバネに必ず好条件に転化してしまうというようがだんだん減りますし、逆にいい著者も獲得しやすくなりまがだんだん減りますし、逆にいい著者も獲得しやすくなりまがだんだん減りますし、逆にいい著者も獲得しやすくなりまがだんだん減りますし、逆にいいでものをまず吟味していく。あるわけです。だから、そのぐらいの厳しさをもつべきだいなら、はっきり言ってこの業界からさっさと足を洗いなされば、経営的な意味でもお互いにとって十分にメリットがあれば、経営的な意味でもお互いにとって十分にメリットがあれば、経営的な意味でもお互いにとって十分にメリットがあれば、経営的な意味でもお互いにとって十分にメリットがあれば、経営的な意味でもお互いにとって十分にメリットがあれば、経営的な意味でもお互いにとって十分にメリットがあれば、経営的な意味でもお互いにとって

私もそういう認識が基本にあって、そういう意味では楽観論 菊池 恩恵を被っていたと言うべきなのだろうけれども、 なってしまった。でも程度は軽いんですね。 ない。ずっと右肩上がりだったこの業界が、 でもない。まだ踏みとどまれる。 神話は崩れた」とよく言われているのですが、どうもそう まっているわけです。要するに、「出版は不況に強いという です。ただ、いま出版社もこの不況の波にのみ込まれてし いうメディアは二十一世紀も生き延びることができるだろう。 ほどの議論のなかで西谷さんがおっしゃったように、書籍と 出版社の営業マンとしては耳が痛かったのですが、 ガタガタッと行くのでは 右肩下がりに わが業界が、 バブル崩

ろうと思います。

いかという気がしているわけです。う出版の姿勢をとっていけば、なんとかなっていくのではなら、編集者も、部数を決める側の営業も、基本的にそういに、しっかりしたものはなんとかなっているんです。だかの出版物の売れ行きを分析してみると、最初にも言ったよう壊で、「それはなしよ」というふうになっただけです。自社

そういう気がしています。 るわれわれも、なんとか食いつなげていけるのではないか。 界に移ってくるわけでしょうし、それをめしのネタにしてい ならば、それが専門書なり教養書なりというかたちで本の世 が、学者の世界の話のようです。学者の世界でそうである 取るためにこういうテーマがまだ転がっているぜ」というの 全部埋め尽くされたかというと、そうではなくて、「学位を の世界でも、どうもそのようですね。いろいろなところが 書店さんにせよ、いろいろな意味で工夫の余地があると思い 継続していくことが、やはり大事なのだろうなと思います。 しかし、そのときに、基本的なものを見失わないで努力を 起こっているし、これからもあり得るだろうと思います。 争があって、体力のないところは沈没するということは現に なってくると、書店さん同士での競争、出版社同士での競 ます。案外、すき間というのがある。物書きの世界、学者 皆さんがあらかたおっしゃいましたが、出版社にせよ、 書店さんも同じだと思います。こういう厳しい経済情勢に

ともかく、先ほど皆さんがおっしゃってくれたことですけ

まあ、なんとかなる。私は本当に最初から最後まで楽観論です。会社でも楽観論を言い続けて、「アホか」と言われているところもあります(笑)。でも下を向いて暗くなってがないと思います。でもなんとかなる。私は本当に最初から最後まで楽観論を方がないと思います。でもなんとか明るい面を先につなげていきたい。また、これだけにとどまらずに、人文会も編集いきたい。また、これだけにとどまらずに、人文会も編集の人たちの協力も得ながら、書店さんともどもこういう議論の人たちの協力も得ながら、書店さんともどもこういう議論の人たちの協力も得ながら、書店さんともどもこういう議論の人たちの協力も得ながら、書店さんともともいい正した。

司会(本当にどうもありがとうございました。)た」と申し上げたいと思います。(人文会の責任者として、最後に「ありがとうございまし

八文字屋書店

谷部昭子

当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし当店は仙台市の北に位置する泉区にあります。オープンし

の中で本に親しんで頂きたい、また、車椅子のお客様同士されていました。しかしながらお客様にゆったりとした空間当初の計画では書籍の棚の数は現在よりもかなり多く予定

うのが実感です。 ・はまだまだ置きたい本が山ほどあり、きりがないものだといいです。しかし実際このスペースに慣れてしまうとそれなりはです。しかし実際このスペースに慣れてしまうとそれなりはです。しかし実際このスペースに慣れてしまうとそれなりはです。しかし実際このスペースに慣れてしまうとそれなりはです。しかし実際にはない在庫量だったため、いつも棚スペーツです。

気に込められていたために、ユニークな小分類があちこちで気に込められていたために、ユニークな小分類があちこちでたのであります。それもこれも我が社の様々な想いが棚に一てじっと棚を見つめると、『おやっ?』と思うような箇所がよかとあらゆる棚に出現。版元の皆様の期待も大きく、にありとあらゆる棚に出現。版元の皆様の期待も大きく、にありとあらゆる棚に出現。版元の皆様の期待も大きく、にありとあらゆる棚に出現。版元の皆様の期待も大きく、にありとあらゆる棚に出現。版元の皆様の期待も大きく、においまなざしに、背後で人知れず冷にある。

ンルを少しずつ整え、現在に至っている次第です。た版元の皆様からの多くのアドバイスを頂戴しながら各ジャす。それでもスタッフは日夜メンテナンスを繰り返し、ま小爆発を起こしたといったところかと今考えれば思うわけで

は怠らないようにしたいと考えております。 を担う立場からの書店のあり方をも考慮しながら地道な努力 かし、長期的な視点を常に持ち続け、出版文化流通の一環 なかなかそう簡単に回転するというわけでもありません。し いものを置いて見て頂くよう配慮しています。とはいえ、 しても店の規模をうまく活用しながらできるだけ他店にはな お客様もいらっしゃいます。従って他店との差別化の一環と 本を探していながらなかなか店頭では見つけられないでいる きたい本が数多くあることも事実です。また、そのような わらず、是非お客様に手に取って頂きたい本、見つけて頂 やすくなる傾向が出てきます。しかしそういったことにかか 品してしまったり一般に知名度の高い出版社の本だけが残り 問題等からどうしても、新刊で入ってきた際、短期間で返 の問題、また委託期間を超過してしまった場合の返品不能の ありました。専門書の場合、その回転率の低さやスペース とつには、〝他店にはない本をなるべく置く〟ということが オープンからこれまで人文書の棚で実施してきたことのひ

があって、売れるべきものがきちんと売れている状態を保つがきちんと揃っていること、各ジャンルに、あるべきものまた、棚づくりの際、特に注意してきたのは定番の商品

であります。

的なわかりやすいものをという思いに走り勝ちになることが えのように保たれているというのが当店の理想とするところ の氷山の一角ということになると思います。それがあたりま うことは、膨大な商品知識と深い理解とデータ分析の集大成 にあるべきものがきちんとあってわかりやすい棚であるとい てもよいのではないかと思います。いずれにせよ各ジャンル ます。人文書の担当者であればこれぐらいの姿勢を持ってい 書が実はやさしい道端の野菊に見えてくるというものであり ると思います。ケース入りの完全防備をしたガチガチの専門 しようとしてみれば実はそれほど堅い本でもないことがわか を止めてその本の書かれた意図や言わんとするところを理解 い』とひとことで言ってしまい勝ちですが、そこで一息呼吸 わかりやすいという状態があると思います。また、〝堅い堅 るわかりやすい棚、入っている本は難しい本だけれども棚は 揃っていて、お客様が一目見てそれとわかるように整ってい ますが、定番商品・定番出版社・キーパーソンがしっかりと 感覚が担当者によってもかなり違い、難しいところだと思い ほど遠いものになってしまいます。そこのところのバランス 確率の高い専門家から入門者までを一様に納得させる棚には るところが命取りになりやすく、そうなってしまっては購入 あります。しかし、堅さを崩そうとすればいくらでも崩れ が強いため、回転率を上げるためにも往々にして比較的総論 ということでした。専門書は一般に〝堅い〟というイメージ

思われます。ただ、大きなフェアにはどうしても返品率が 模なものが多く、人文書のアピールには効果が大であったと 棚作りを目指したいと思います。 様々な提案をフェアによって実施し、魅力あるジャンル作り、 して行きたいとも考えています。今後も出版社企画も併せて こし、または切り口を変えたテーマの提案等にフェアを活用 という考えがあったため、ある特定ジャンルの読者の掘り起 より一層お客様にわかりやすいユニークなものにしていこう に置いています。しかし、また一方では当初から小分類を ア台も縮小いたしました。基本はやはり棚の中での商品展開 つきものになるため、現在はレイアウト変更の際に同時にフェ ア台がかなり大きかったため人文書のフェアでも比較的大規 した。主なフェアは〝癒やし〟 71世紀の福祉 人文書のフェアもこれまでいくつか実施して参りま "春の教育書 "家族問題" "世界遺 等です。当店では従来のフェ 産

> 行きたいと思います。 皆様のアドバイスを頂きながら、 きながら現在に至ることができたと思います。今後も版元の りました。そういった多くの方々の様々な形でのご助言を頂 理想の棚づくりを目指して

今後もスタッフ全員で邁進して参りたいと思っております。 あり、きちんとした本、売れるべき本が売れる店づくりに 修練が不可欠なことは言うまでもありません。あるべき本が 選び抜いたものを置きたい、そのためには多くのアドバイス といった現状ですが、ただ漫然と並べているだけではなく、 に加えてなんと言っても我々担当者自身の仕事に対する自己 規模的には恵まれているとはいえ、置きたい本は数知れず

是非御来店下さいませ。

たからであろうと思います。またお客様からの御要望等もあ はやはり版元の皆様からの多くのアドバイスやご支援があっ 実情です。しかしこの間、 現在の棚に至るまでになったの かな分野に比べるとどうしても希薄にならざるを得ないのが うでもないと仕事に没頭している毎日です。それでも尚、 我々も外からの多くの刺激を受けながら日夜ああでもないこ 進出し、以前と比較して商環境が随分変化して参りました。

オープンからまる二年が経ち、仙台にも大型書店が次々と

人文書・専門書に関する専門知識や社内ノウハウは他の身近



東北地区研修旅行報告

弘報委員会 鎌子 内宣子 行

三名が同行してくださいました。
三名が同行してくださいました。
三名が同行してくださいました。東北地区での研修は、九四年(山形、仙台、秋田)以来四年振りとなります。また、販売会社様からは、池田以来四年振りとなります。また、販売会社様からは、池田以来四年振りとなります。また、販売会社様からは、池田)は、仙台市、盛岡市の書店様との研修をさせていただき山市、仙台市、盛岡市の書店様との研修をさせていただき山市、仙台市、盛岡市の書店様との研修をさせていただき山市、仙台市、盛岡市の書店様との研修をさせていただき山市、仙台市、盛岡市の書店様との研修をさせていたが

注目されています。 ないでしょうか。仙台を中心にしたこの地区は、この点で型複合店)出店という大きな二つの流れに分けられるのでは型複合店)出店という大きな二つの流れに分けられるのではルチェーンの全国展開化と地域の老舗店の郊外への支店(大ん百坪前後から千坪規模)に関して言えば、大手ナショナ(五百坪前後から千坪規模)に関して言えば、特に大型店この数年来の書店の新規出店ラッシュは、特に大型店

最初に訪問した郡山市では福島市に本店を持つ「岩瀬書店」録した「CD−ROM」版を事前にお渡ししました。作成した「人文書のすすめ」と基本図書四四○○点余を収作成した「人文書の書店様には人文会創立三十周年記念として

車で十五分ほどの郊外型複合店です。店内見学のあと研修会 が今年八月に出店したばかりの「岩瀬書店富久山店」に伺 めるチャート付きの解説書の作成)をすべき時期ではないの 棚を担当する方に、そのジャンルの概略が十五分ぐらいで読 もとより会としても、より具体的な提案(例えば、初めて をどうすれば良いのか、書店現場担当者の方との情報交換は 店のような店(地元書店の大型郊外店) での人文書の展開 具体的な提案を求められました。 会としても今後、 富久山 され、橋本店長からは、人文書の棚の活性化のためのより た。棚の内容については、会員各社より意見・提案等がな 投入している現状を熱のこもった言葉で話していただきまし 域文化を担っていくうえで一つのモデルケースとして全力を ナショナルチェーンの出店競争とは別次元のことであり、地 瀬書店のように歴史もあり地域に密着した地元書店の責務で、 万前後の地方都市で専門書を含む大型店を出店する事は、岩 に際しては岩瀬社長自らご挨拶をいただきました。人口三十 いました。福島県最大の売場面積一一五〇坪、郡山駅から

かと思いました。

ています。一列に並んだ閲覧用のテーブルはお客様で満席状けなかった専門書が整然と並び、ジュンク堂カラーを主張した型店です。人文書の棚はいままでの仙台の既存店さんが置大型店です。人文書の棚はいままでの仙台の既存店さんが置きせていただきました。駅前に隣接したビルの六、七階できせていただきました。駅前に隣接したビルの六、七階であせたがです。一列に並んだ関策を持つがある。一列に並んだ関策を表する。一列に並んだ関策を表する。一列に並んだ関策を表する。

態でした。

見学後、昼食を囲み研修会が行われました。 京都店から見学後、昼食を囲み研修会が行われました。 京都店から 自食を囲み研修会が行われました。 京都店から 見学後、昼食を囲み研修会が行われました。 京都店から しているという分析結果が出されました。

ターのなかの四五○坪の店です。店内を見学させていただき作年九月にオープンしたザ・モールというショッピングセン次に伺った「紀伊國屋書店仙台店」は市の南部の長町に

この夜は、明日訪問予定の書店様と販売会社様を交えた懇

親会を行いました。

りました。

勉強中とのことで率直な意見交換になりました。客層はパーク、この六月からパークタウン店に移動したこともあり、たがら研修会に入りました。店長御自身は外商の仕事が長店内は明るく非常に見やすい棚でした。佐藤店長と昼食を囲店の「金港堂パークタウン店」に伺いました。四三○坪の店の「金港堂パークタウン店」に伺いました。四三○坪の店の「金港堂が今年四月にオープンした北部泉地区の郊外店の「金港堂が今年四月にオープン市に移動した。客層はパー2000円

言うことでした。 言うことでした。

でのが残念でした。 大のが残念でした。 ですが、片桐店長はじめ担当の斉藤係長の熱心な取り組みいただいています。ジュンク堂さん出店で影響はでているようにが、確実に人文書の読者の掘り起こしに繋がっているようにが、確実に人文書の読者の掘り起っているよいただいています。ジュンク堂さん出店で影響はでているよいただいています。 激戦区仙台の火付け役として四六た「八字屋書店」です。 激戦区仙台の火付け役として四六たのが残念でした。

かと伊藤店長はおしゃっていました。は出ているようですが、数字的には健闘と言えるのではない人文科学書ともに充実した品揃えでした。大型店出店の影響、次に、「東北大学生協文系店」に伺いました。社会科学書・

紙面の関係で詳しくは報告出来ませんが、激戦区の中、既ェ駅前店」岩崎課長様、本当にありがとうございました。店」の日下店長様、「新星堂仙台店」の須藤店長様、「アイ「金港堂」の原田常務様、「高山書店」の浜田様、「宝文堂本一番町に移動し、既存店を見学させていただきました。

を生かして客層にあった品揃えで勝負している様子が感じら存店として一番町の商店街または駅前というそれぞれの立地

れました。

のお話がありました。 のお話がありました。 のお話がありました。 のお話がありました。 のお話がありました。 のお話があり、 の出店で特に一般書・新書・文庫に影響が出てた。 この席で事業連合の藪田部長様からは、「ジュンク堂」 東北学院大学生協様を囲み、懇親会を持たせていただきまし 東北学院大学生協様を囲み、懇親会を持たせていただきまし

担当の皆尾様を交えて研修会がもたれました。学させていただき、続いて白崎部長様、相沢次長様、人文翌十六日は、開店直後の時間から「丸善一番町店」を見

と言えば、入門的なものが多いように思われました。と言えば、入門的なものが多いように思われました。は二七〇坪と最大の売場面積のお店です。人文書はどちらか次に伺ったのは「東山堂ブックセンター」です。 盛岡で

ターの栃内店長様のお出迎えを頂きました。森支配人様はじめ、畠山部長様、 是川店長様、 ブックセン含め、出版社別展示の棚ですが盛岡一の在庫量と思われます。最後に、「東山堂本店」に伺いました。人文書は専門書を

も 大変なご苦労とご努力をなさっていることが見受けられ、層厳しさを増しているようです。今回伺った書店様について変わらず続いています。その結果個々の書店の売り上げは一心た書店様すべてに伺わせていただくことが出来ました。自山部長様を囲み懇親会が行われました。こうして、予定畠山部長様を囲み懇親会が行われました。こうして、予定畠への夜は、「第一書店」工藤様、「さわや書店」伊藤店長

の強い働きかけができるのではないかと考えております。にしていただくことで、棚の充実と活性化に繋がれば読者へ回作成した「人文書のすすめⅡ」の基本図書リストを参考の目は厳しさを増しています。冒頭でも記しましたが、今頭のさがる思いがしました。人文書にとっても読者の本選び

上げます。
したトーハン、日販、鈴木書店の皆様にあつく御礼申しり、まことに有り難うございました。また、ご同行下さい多忙のなかを私ども人文会のために貴重な時間を割いて下さる後になりましたが、各書店、販売会社の皆様には、ご

ることをお断りいたします。ので、お話と異なる点がありましたらすべて筆者の責任であまた、書店様のコメントは筆者のメモをもとに記録したも

人文会発足三十年と『人文書のすすめⅡ』の刊行について

1表幹事 菊池明郎

二十周年を迎えた一九八八年に、人文会会員仕切の共司出格段に増え、多くの読者の支持を得ているのが現状です。市民権を獲得し、さらに分類についても新しい学問の流れに市民権を獲得し、さらに分類についても新しい学問の流れに書店あるいは大学生協書籍部の店頭において、人文書の棚はした。発足以来今年で三十年を迎えましたが、全国の主要した。発足以来今年で三十年を迎えましたが、全国の主要した。発足以来今年で三十年を迎えましたが、全国の主要した。発足以来今年で三十年を迎えましたが、全国の主要した。発足以来今年で三十年を迎えましたが、全国の法別の人文会は、人文書の普及と書店店頭における人文書の棚の人文会は、人文書の普及と書店店頭における人文書の棚の人文会は、人文書の普及と書店店頭における人文書の棚の

文書の売上げが目に見えて伸びるという成果を得ることがである『人文科学の現在』と同様に広く書店人、あるしましたが、『人文科学の現在』と同様に広く書店人、あるしましたが、『人文科学の現在』と同様に広く書店人、あるしましたが、『人文科学の現在』と同様に広く書店人、あるで新聞・雑誌の各書評でも大きく取り上げられました。その版である『人文科学の現在』を発行したところ、大変好評版である『人文科学の現在』を発行したところ、大変好評版である『人文科学の現在』を発行したところ、大変好評版である『人文科学の現在』を発行したところ、大変好評版である『人文科学の現在』という成果を得ることがで

きました。

す。 た目的が達成できたのではないかと受け止めているところでた目的が達成できたのではないかと受け止めているところでようで、お役に立つことができて、このような本を出版し図書館においても、蔵書のチェックで利用していただいた

Ⅱ』を発行するに至りました。改訂版の発行を求める声も多かったので、『人文書のすすめ、三十周年を迎えるに際して、若干の調査をしましたところ、

第三部は、人文書の基本図書を哲学・思想、心理、宗教、第三部は、人文書の基本図書を哲学・思想、心理、宗教、書店の方はもちろん、読者の方にとっても興味深いものになっにお答えいただいたものをまとめました。これらのお答えはにお答えいただいたものをまとめました。第一線でご活躍中一部は人文科学各分野の最新のテーマを、第一線でご活躍中一部は人文科学各分野の最新のテーマを、第一線でご活躍中一部は人文科学各分野の最新のテーマを、第一線でご活躍中一部は人文科学各分野の最新のテーマを、第一線でご活躍中一部は、人文書の基本図書を哲学・思想、心理、宗教、本書の構成は『人文書のすすめ』を踏襲しています。第本書の構成は『人文書のすすめ』を踏襲しています。第

歴史、社会、教育、批評・評論の七つの中分類にわけ、さらに七○の小分類に区分して四四○○点余を基本図書としていただきまとめてみました。この作業には会員各出版社の編集者、まとめてみました。この作業には会員各出版社の編集者、まとめてみました。この作業には会員各出版社の編集者、まとめてみました。この作業には会員各出版社の編集者、またがはるのではないかと思います。

ただきたいと存じます。でもありませんので、こうした点をご理解の上、ご利用いの取り方とはなっていません。また学問的に十全という分類点に立っておりますので必ずしも十進部類に則ったジャンル点に立っておりますので必ずしも十進部類に則ったジャンルをだきたいと存じます。

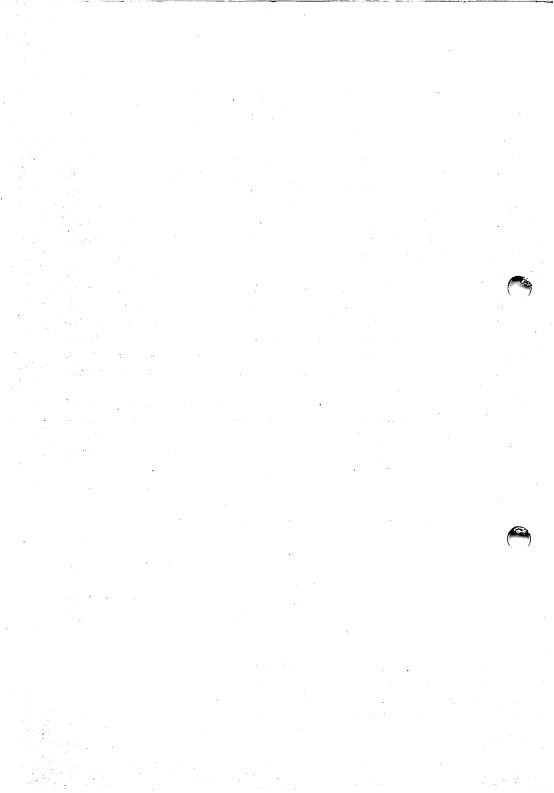
現在流通している書籍は五十数万点と言われておりますが、絡下さい。CD-ROM版は毎年データを更新する予定です。たしました。ご利用されたい場合は、人文会会員社にご連なお今回は「基本図書一覧」のCD-ROM版も作成い

「ブックス」で検索できるようになりました。び発行予定の近刊が、日本書籍出版協会のホームページこの目録に収められた書籍とそれ以降に発行された新刊およれていますので、ご活用をおすすめします。今年からは、ている『日本書籍総目録』があります。毎年新版が発行さそれらをほぼ網羅した目録は日本書籍出版協会から発行され

『日本書籍総目録』以外には、主要書店等で入手できる

ので、合わせてご利用いただくことをおすすめいたします。ので、合わせてご利用いただくことをおすすめいたじますなります。これらの各専門書目録には解説もついておりますなどをご覧になると、人文書の各分野がカバーされることになどをご覧になると、人文書の各分野がカバーされることになどをご覧になると、人文書の各分野がカバーされることになどをご覧になると、人文書の各専門題図書総目録』、『社会図書総目録』、『社会図書総目録』、分野別の各専門書目録があります。『哲学・思想図書総目録』、分野別の各専門書目録があります。『哲学・思想図書総目録』、分野別の各専門書目録があります。『哲学・思想図書総目録』、

き受けいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。 は、そして人文書を愛読される多くの読者のお役に立つ本 になったのではないかと存じます。なお本書に関するご意見 になったのではないかと存じます。なお本書に関するご意見 になったのではないかと存じます。なお本書に関するご意見 になったのではないかと存じます。なお本書に関するご意見 になったのではないかと存じます。のによのお役に立つ本 して人文書のすすめ』の経験を生かして編集した結果、書 と『人文書のすすめⅡ』は、これまでの『人文科学の現在』



人文会会員名簿

(〒111-8755 台東区蔵前2-5-3 筑摩書房内)

1998. 12. 現在

			社			名	担当	省	₹	所 在 地	電 話	FAX	
	幹	事	青 :	木	書	店	古川	清	101-0051	千代田区神田神保町 1-60	3219-2341	3219-2585	
	幹	事	大 .	月	書	店	原田	敦雄	113-0033	文京区本郷 2 -11- 9	3813-4651	3813-4656	
			御茶	の	水 書	房	平石	修	113-0033	文京区本郷 5 -30-20	5684-0751	5684-0753	
			紀伊國屋書店				段塚	省吾	156-8691	世田谷区桜丘 5 -38-1	3439-0128	3439-3955	
			勁	草	書	房	内藤	繁人	112-0004	文京区後楽 2 -23-15	3814-6861	3814-6854	
			社会	: 思	想	社	対比均	也邦男	113-0033	文京区本郷 3 -25-13			
										中銀本郷 3 丁目ビル	3813-8101	3813-9061	
			春	利	k	社	鎌内	宣行	101-0021	千代田区外神田 2-18-6	3255-9611	3253-1384	
	幹	事	晶	文	(社	島田	孝久	101-0021	千代田区外神田 2 - 1 -12	3255-4501	3255-4506	
	幹	事	誠	信	書	房	濱地	正憲	112-0012	文京区大塚 3 -20- 6	3946-5666	3945-8880	
			創	Я	3	社	重光	義彦	162-0801	新宿区山吹町334-11	3269-1051	5229-7139	
			草	思	Ĭ	社	浴野	英生	150-0001	渋谷区神宮前 4 -26-26	3470-6565	3470-2640	
	代表幹	事	筑	摩	書	房	菊池	明郎	111-8755	台東区蔵前 2 - 5 - 3	5687-2680	5687-2685	
			東京大学出版会			吉田	信夫	113-8654	文京区本郷 7 - 3 - 1				
										東京大学構内	3811-8814	3812-6958	
			日 4	信才	「 論	社	後藤	光行	170-8474	豊島区南大塚 3-12-4	3987-8621	3987-8590	
			福	村	出	版	土屋矢	可夫	113-0033	文京区本郷 2 -30-7	3813-3981	3818-2786	
			平	Ŀ	L	社	藤代	俊久	152-8601	目黒区碑文谷 5-16-19	5721-1234	5721-1239	
			法政大学出版局			市川	昭夫	102-0073	千代田区九段北3-2-7				
										法政大学一口坂別館内	5214-5540	5214-5542	
	幹	事	みす	ナ す	* 書	房	福田	晴行	113-0033	文京区本郷 5 -32-21	3814-0131	3818-6435	
			ミネルヴァ書房				杉田	啓三	607-8494	京都市山科区日ノ岡堤谷町	J 1		
										(075) 581-5191 (075) 581-8379			
-									101-0054	千代田区神田錦町3-6			
										石澤ビル3F	3296-1615	3296-1620	
	幹	事	未	Я	٤	社	吉田	哲夫	112-0002	文京区小石川 3 - 7 - 2	3814-5521	3814-8600	
			雄山	L P	出出	版	正木	宏	102-0071	千代田区富士見 2 - 6 - 9	3262-3231	3262-6938	
			有	多	E.	畧	田村	謙二	101-0051	千代田区神田神保町 2-17	3265-6811	3262-8035	
			吉川	11 克	文之	館	馬場	正彦	113-0033	文京区本郷 7 - 2 - 8	3813-9151	3812-3544	

販売企画委員会 ②古川 ○内藤 重光 後藤 対比地 調査・研修委員会 ②原田 ○吉田(信) 田村 藤代 図書館委員会 ②島田 ○平石 正木 段塚 弘 報 委 員 会 ②吉田(哲) ○市川 谷野 土屋 杉田 馬場 鎌内

未來社

ルト伝

3世 紀ぶりに書き変えられたデカ ルト伝の決定版リ ●4800円

ハーレムの少女

F・メルニーシー 〔モロッコ の古都フェズに生まれて〕 著 者の少女時代を活写●2400円

ズム下の女たち

C・シュッデコプフ編〔第三帝 国の日常生活] 10人の女性が 語る個人的生活体験●2400円

〒112-0002 文京区小石川3-7-2 ☎(03)3814-5521

Ĭν ナ ロビン編

訳

を必要としているのでしょう。患者の声と介護者の体験記エイズ患者を家族で介護する人たちはどんな問題を抱え何

大〇〇円

盲

デリダ の記憶

記憶の作用などを問う高密度な哲学。 鵜飼 哲訳 三500円 画家はなぜ盲目を描くのか。父と子、判断停止と懐 自画像およびその他の廃墟

句の分析から三島由紀夫まで批評の基本を示す九篇。小西甚一 テクストを読む人はなぜ感動するのか?

三00円

五000円

五五

Ō

0

分析批評の試みとし

る。〈早すぎた作家〉の劇的な復活長篇。 小沢瑞穂駅 三〇〇円陽光と死にあふれたカリブの島で愛と憎しみのドラマが始ま をリードする七人がその可能性を語る。中島・松田駅 〒00円ロールズ他 〈人権〉は普遍の原理たりうるのか? 現代思想 ガッ ソ I の い **コレクション** 1

#

権

に

つ

い

7

アム

ネスティ連続講奏

東京文京本郷 ず書房(飛別) す 5 丁目32-21

*価格は税別

★大正新脩大蔵経の全典籍を逐-

鎌田茂雄・河村孝照・中尾良信・福田亮成・ 吉元信行 編 B5判·1088頁 38000円 ●再版出来/ (内容見本呈)

【概要】大蔵経の2920の全典籍について、読み、 異称・略称、成立、内容、関連典籍など、典籍の重 要度に応じて解説。日本古典文学に登場する大蔵 経典一覧、大蔵経図像部記載の仏像・仏画と経典 の対照一覧、典籍名索引等付録も充実。

律令制成立過程の研究

武光 誠著 文化史的視点から律令制の成立を解 明し、古代史研究に新たな展開を迫る。 4800円

証 西洋百科事典 『厚生新編』

杉本つとむ編著 翻訳書として明治期以前最大 の、江戸時代研究必須の資料。 18000円

村を歩く一日本史フィールド・ノート

木村 礎著 長年のフィールドワークの経験をふ まえ、研究の方法、考えかたを開陳。 2500円

〒102-0071東京都千代田区富士見2-6-9 ☎03(3262)3231 振替00130-5-1685 http://www.nepto.co.jp/yuzankaku/

ミネルヴァ書房

明 神野慧|郎著 ホブズボーム著/鈴木幹久・永井義雄訳 **仁門心學の經濟思想** |閥形成史の研究 リス労働史研究 E 記 ム研究 家 五五〇〇円 0) の成立 研 一自由と形式 E・カッシーラー 豝

増補版 補版 予六五〇〇円 五五〇〇円 五五〇〇円 五秋〇〇〇門著 三竹〇〇八門

増

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 (税別)

20世紀社会科学のフロンティア <社会学>の新しい古典 シリーズ 社会学の思想 (第1回配本)

・ギデンス/藤田弘夫[監訳]

構造の二重性の視点で社会理論の統合をは かるギデンズが12のテーマを俎上に斬新な 視角で展開する思考のプロセス。

福田静夫「著〕

現代福祉哲学序説 新しい時代のオルターナ ティヴとして「社会福祉」を! 「いのち」をキイワー ドに、現代という大きな転換の時代がはらむ [人 間 | の諸問題を多様な視角から解析。●¥3800

青木書店

東京都千代田区神田神保町 1-60 税別 TEL [03] 3219-2341 FAX [03] 3219-2585



有斐閣

因を探り、安全な生活確保のこうつで、暴力の長ょでの夫・恋人からの暴力となくすために、暴力の長ょで大(恋人)からの暴力」調査研究会著「智閣選問」五○○円、大(恋人)からの暴力」調査研究会著「智閣選問」 エ〇〇円 大(恋人)からの暴力」調査研究会著「智慧関連的」を表している。 宣言および国内法を収録、 本書は、女性問題解決に大きな影響を持つ条約・勧告 する中で、法的リテラシーはいまや不可欠となっている。◎条約・勧告・宣言から国内法まで 男女平等が前進 問題ごとに簡潔に解説する。

国際女性の地位協会編 A5判力パー付三六〇〇円

-ヒストリー 近代日本 ュ-

四六判/各26 〈全20巻〉 00円

災害観の変化から、時代の転換期を描く新しい社会史。アなどの動きや被災者たちの救済・復興、そして人々の

村が壊滅した。この災害をめぐる政府・科学者・メディ

一八八八年(明治二一)、福島県の磐梯山が噴火し、

②「故郷」という物語 ①客分と国民のあいだ 成田龍一著 牧原憲夫著

都市空間の歴史学 ・政治意識の 北原糸子著

〈第三回配本/最新刊〉 災異か 災害の科学 ĥ

(価格) 税別 吉川弘文館

数力

東京都文京区本郷7-2-8・電03-3813-9151

核戦争が起きなかつたのは奇跡なのだ…… 嘆からの回復と癒しについての深い省察。 たちが「核を廃絶せよ」と叫びはじめている。44判・21600円(税別) T・アティッグ著/林大訳 愛する人が突然亡くなったら……。 マクナマラ、バトラーなど、核のボタンに手をかけた政治家や軍人 44判·2000円(税別 川上洸・浅井基文解説ジョナサン・シェル著

東京都文京区本郷2-11-9 電話03(3813)4651〈代表〉

算数・数学が楽しくなる12夜

エンツェンスベルガー ベルナー絵 丘沢静也訳 数の悪魔が、数学嫌い治 します! 悪魔にみちびかれてはてしな く不思議な数の世界に遊ぼう。愉快な 入門書。10歳からみんな。10刷/2982円

★好評のロングセラー

自分をまもる本 いじめ、もうがまんしない ストーンズ 具体的に助言。13刷/999円 考える練習をしよう

バーンズ 楽しい問題。 39刷/1733円

東京都千代田区外神田2-1-12 電話03(3255)4501 価格は税込

冷戦史観とは別に中国の戦争被害状況等の新しい視点で分析(本) (インイェンジュン)著

戦時下の「暗黒日記」など抵抗のジャーナリスト清沢洌の思想山本義彦著
 ム5判・五八〇〇円・近代日本の自由主義と医際平利 洲の政治経 民政府の戦時・戦後対日政策を中心に 経済思想

3、手紙、予審調書など新しい史料で再構成-期における社会運動と出版文化の歴史像を A5判·五000円

手書きメモ、日記、梅田俊英著梅田俊英著

社会運

御茶の水書房

価格は税別 東京・文京区本郷5-30-20 ☎03-5684-0751

ロパガン

広告・政治宜伝のからくりを見抜く プラトカニス他/社会行動研究会訳 大衆操作の実態を解明し, あやつら れないための知恵を伝授。 3200円

ライフレビューによる人生の再発見 フリード/黒川由紀子他訳 高齢者 たちがその人生を見つめ、物語り, 心が癒されていく記録。 2300円

重病の子どもが描く自由画の意味 バッハ/老松克博・角野善宏訳 どもたちの絵が暗示する心身の状況を 膨大な数の絵から読み解く。5800円

東京都文京区大塚3-20-6 ☎03-3946-5666 ▶税別◀

底にある「アイデンティティ」を多様な視点から分析。 ■田丸・桜井他編 乂化と民族の揺らぎのなかで

民族紛争はじめ現代の諸問題の根

け、寄りそいつつ思想の開拓地を旅する新しい哲学。 真理や愛の本質への問いを、

田島正樹

春秋社 東京都千代田区外神田2-18-6

人生の教科書

「よのなか」

藤原和博•宮台真司

ハンバーガー、自分の家、仕事、自殺、 セックス……世の中のことがきちんと わかると、こんなに楽しい。中高生か ら大人まで、必読の教科書。 1500円

タナトスの子供たち 中島梓

●過剰適応の生態学 少女達の少年愛 趣味〈やおい〉流行の底流を探ってい くと、子供たちの、すべてを無に帰す "滅びへの意志"に行きつく。1700円

筑摩書房

サービスセンター048(651)0053 価格は税別

「知の再発見 | 双書

■絵で読む世界文化史■

旧約聖書の世界

ー神とヘブライ人の物語

M・H・ルベル著 矢島文夫監修 一神教の神を生んだへブライ人とは? その全体像を詳述する。 1400円(税別)

A・ヴェッツォシ著 高階秀爾監修 研究の第一人者が,謎に包まれた万能 の天才の素顔にせまる。 1400円(税別)

創元社 大阪市中央区淡路町4·3·6 東京都新宿区山吹町334·11

古代共 物量 風 語意 流能 倫子 **(**) 玉 肃 中 # 神話 代金春禅鳳とその周辺 景観 ・説話・民話の歴史学 A5判·五六〇〇円 海運

東京大学出版会

·五四〇〇

・六四〇〇

九二〇〇

東京都文京区本郷7-3-1 203-3811-8814 http://www.utp.or.jp/〈表示は本体価格〉

草思社

愛することができる 人は幸せだ

ヘルマン・ヘッセ V・ミヒェルス編/岡田朝雄訳

"ヘッセの恋愛論"とでも言うべき書。 異性への愛から「世界への愛」という境 地に至った恋愛遍歴を描く。●1800円

新たな一歩を 踏みだすために

スザンナ・タマーロ/泉 典子訳

『心のおもむくままに』作者の初のエッ セイ集。しなやかに自然に生きようと呼 びかける愛にみちた人生論。●1500円

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-26-26 203 (3470) 6565 価格は税別です

1998年12月10日発行 年 4 回発行 第83号 発行所 人文会 筑摩書房内 〒111-8755 東京都台東区蔵前2-5-3 〈非売品〉.